

高文連

第 6 号



山口県高等学校文化連盟

萬文連

第 6 号

もくじ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第16回山口県高等学校文化祭の記録	
総合開会式	16
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	20
合唱部門	21
吹奏楽部門	22
マーチングバンド・バトントワーリング部門	23
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	25
(展示関係部門)	
美術・工芸部門	27
書道部門	30
写真部門	31
(囲碁部門)	32
(演劇部門)	33
(放送部門)	35
第18回全国高等学校総合文化祭の記録	36
器楽・管弦楽部門	37
合唱部門	38
吹奏楽部門	39
マーチングバンド・バトントワーリング部門	41
日本音楽部門	42
吟詠剣詩舞部門	43
美術・工芸部門	45
写真部門	46
書道部門	47
囲碁部門	48
自主事業	50

参考資料

第9回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧	55
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	56
平成7年度山口県高等学校文化連盟〈事業計画〉	57
平成6年度山口県高等学校文化連盟会計決算書	58
平成6年度山口県高等学校文化連盟〈事業報告〉	59
平成7年度山口県高等学校文化連盟会計予算書	60
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	61
平成6・7年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	66
全国高文連の歌	68

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会長 桂 雄三

山口県高等学校文化連盟は、発足以来年ごとに組織・内容ともに充実してまいりました。これも、県下の高校生の皆さん、そして熱心にご指導いただいている指導者の方々の熱意のたまものであると感謝しているところであります。

さて、「文化の翼いま大空へ テイクオフ」のテーマのもとに、平成6年6月17日に、宇部市渡辺翁記念会館で第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式を、多数の御来賓の御臨席を賜り開催いたしました。新装なったばかりの会場は、若人の祭典らしく終始熱気にあふれ、主管校の宇部高校をはじめとして地区の各高等学校の御協力により盛会裡に終えることができました。

今年度から放送部門が正式に加盟し、全12部門となりました。音楽4部門の発表会を皮切りに、それぞれの部門が各地で平素の精進の成果を発表し合い、各学校の交流も深められました。

8月4日から愛媛県で開催された第18回全国高等学校総合文化祭には、本県から10部門282名が参加し、それぞれの部門で立派な発表を行いました。特に、松山市周辺は異常渇水による断水中でホテルでの生活もままならぬ中で、地元の沢山の高校生が一人一役で参加し、心のこもった歓迎をしてくれたことが印象に残っています。まことに国際色豊かだった総合開会式、各部門での本県参加者の熱のこもった演奏、演技、そして地元の高校生との温い交流と多くの想い出を残したのでした。

本年度の事業も、各部門に所属する高校生の皆さん、諸先生方など沢山の方々の御支援によって無事終了することができました。県下各校における文化活動を支援し、活動の輪を学校から県、そして全国へと広げ、またより高い水準を目指して日々の活動が繰り広げられるための環境づくりを、これからも心がけていきたいと考えております。

終わりに、『高文連集録6号』の発刊に際し、原稿を寄せていただきました方々、この一年間高文連活動に温い御支援をいただきました関係各位に、心からなる謝意を表しまして発刊のごあいさつといたします。

山口県高等学校文化連盟各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1. 平成6年度第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

6月17日(金) 宇部市渡辺翁記念会館
曲目「タンホイザー」より大行進曲
「大地讃頌」
指揮 繩田正規(宇部高校)
器楽・管弦楽部門より 76名出演

2. 平成6年度第16回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

6月18、19日(土、日) 宇部市渡辺翁記念会館
参加8校、各校によるギター、マンドリン、弦楽合奏、管弦楽などの演奏

3. 第18回全国高等学校総合文化祭 愛媛大会

8月7日(日) 県民文化会館(松山市)
山口県代表 山口中央高等学校
(曲目 モーツアルト:ディヴェルティメント K. 136)

4. 平成6年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

12月16日(木) 下関南高等学校校長室
部会長以下、出席者9名
第14回器楽・管弦楽スプリングコンサート(柳井大会)、県総文、全総文、高文連
表彰、役員改選などについて協議

5. 第14回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

3月23日(木) サンビームやない
参加8校、各校によるギター・マンドリン、弦楽合奏、管弦楽などの演奏

- ※ 平成6年度全国学校合奏コンクール
下関南高等学校

中国大会 最優秀賞受賞
全国大会 優良賞(第3位)受賞
(曲目 チャイコフスキ:イタリア奇想曲)



第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
宇部市渡辺翁記念会館

合唱部門

理事長 石島栄子

(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して
行われた今年度の行事を、報告いたします。

1. 5月29日

山口県高等学校合唱講習会
開幕式典を控えての講習会
講師：矢田正一（大阪音大助教授）
内容：発声と曲作り
曲目：タンホイザー、大地讃頌
場所：宇部短期大学学生ホール
172名参加

2. 平成6年度第16回山口県高等学校総合文化祭

祭総合開幕式典において慶祝演奏

6月17日(金)

下関南高校管弦楽団との合同演奏

• オペラ タンホイザーより歌合戦の入場の
場面

• カンタータ 「土の歌」より「大地讃頌」
県高校合唱団 335名

3. 平成6年度第16回山口県高等学校総合文化祭 音楽4部門発表会

6月18日(土)、19日(日)

宇部市民館

4. 第18回全国高校総合文化祭

8月6日

愛媛県県民文化会館メイ
ンホール

山口県代表

防府高校合唱部

山頭火を題材とした
オリジナル曲「風の
中を行く」を好演

5. NHK学校音楽コンクール県大会

8月23日 徳山文化会館

6. AJCL(全日本合唱連 盟)コンクール県大会

(岩国市) 9月4日(日)

中国大会(鳥取県民会館
梨花ホール) 10月8日(土)

7. 高文連合唱部会

12月2日 野田学園高等

学校



吹奏楽部門

理事長 椎木浩二
(徳山高等学校教諭)

平成6年度、山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は宇部高等学校主管のもと、6月17日(金)宇部市渡辺翁記念会館で盛大に開催されました。

吹奏楽部門としては宇部地区高等学校合同吹奏楽団(約100名)を編成して式典並びに慶祝演奏に参加いたしました。

[式典]

“ファンファーレ”

“高文連の歌”

[慶祝演奏]

“コンサートマーチ「ティク・オフ」”

“ポップス描写曲「メインストリートで」”

指揮 古野義晴先生(小野田高等学校)

2. 県総文音楽4部門発表会・県連合音楽会

総合開会式に引き続いで6月18日(土)～19日(日)の2日間、音楽4部門発表会並びに連合音楽会が同じく宇部市渡辺翁記念会館で開催され、吹奏楽部門関係では55校2,117名の多くの学校や生徒達が参加し、迫力あるすばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文愛媛大会

全総文愛媛大会吹奏楽部門は8月5日(金)～6日(土)の2日間、3,000人収容できる愛媛県県民文化会館メインホールのすばらしい会場で開催されました。

34の都道府県から38校の参加があり、山口県からは下松高等学校吹奏楽部39名

(福田 望先生指揮)が6日(土)の2日目に出演し、バレエ音楽「ガイース」と「潮騒と星のまち」の2曲を演奏披露しました。音楽性豊かな演奏で観客席から絶賛の評が聞かれました。

松山市は連日水不足の状態が続き、各会場をはじめ市内の旅館やホテル、温泉場等で給水制限がなされ、猛暑の中大変暑い思いと宿舎での不便さを感じました。

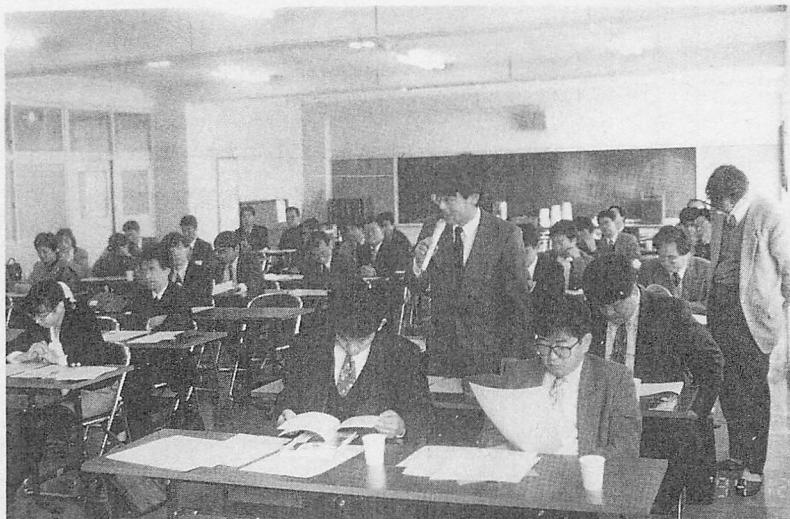
4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月5日(月)徳山高等学校で開催いたしました。県下46校の先生方が出席され、各協議事項に対して、多くの方々から活発な意見がなされ、今後の吹奏楽部会の運営に大変参考になりました。

5. 吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催し、全国高等学校吹奏楽界のトップの座に君臨しておられる、大阪府立淀川工業高等学校吹奏楽部顧問の丸谷昭夫先生を講師にお迎えし「魅力ある吹奏楽の運営」と題した講演をしていただきました。

先生の生々しい実体験をもとに講演された内容は、感動的であり、日頃、吹奏楽の運営や指導等に頭を悩ましている我々現場の指導者にとっては大変よい勉強になりました。



▲
吹奏楽部会総会▶



▲
吹奏楽部研修会▶



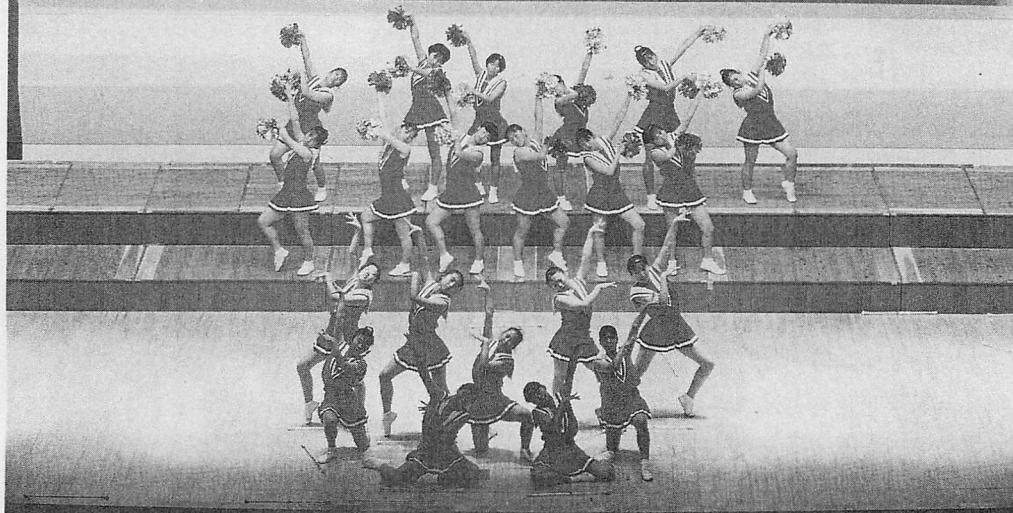
マーチングバンド・バトントワーリング部門

理事長 花村 慶照

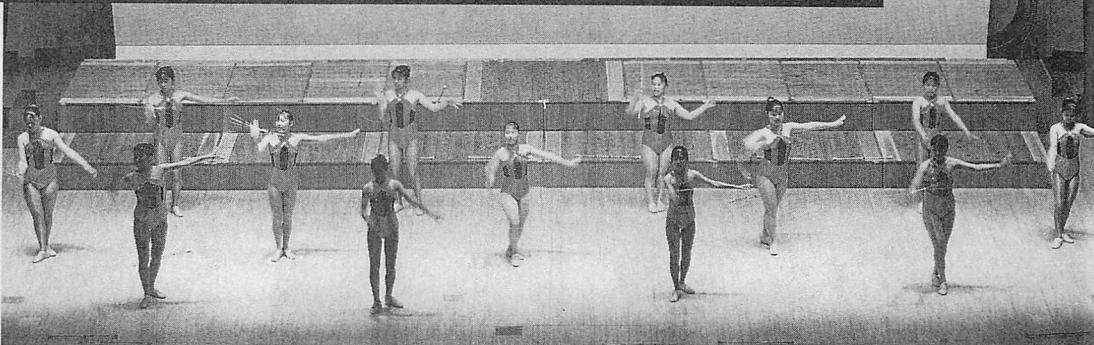
(宇部女子高等学校教諭)



文化の翼 いま大空へ テイクオフ



◆県総文
宇部女子高等学校



本年度のマーチングバンド・バトントワーリング部門の活動状況をふりかえってみますと、昨年度までは、マーチングバンドには2校、バトンワーリングには3校の計5校であったが、本年度は、山口県鴻城高等学校のマーチングバンドが参加され、さらに来年度には宇部女子高等学校のプラスバンド部の部門への参加が見こまれておりますが、他の部門と比べてまだまだ少なく、これからも、部門参加を求めていくしかいです。本年度の行事参加は6月17日(金)から宇

部市渡辺翁記念会館で行なわれた、第16回山口県高等学校総合文化祭への部門参加に6校が参加され、また8月4日より愛媛県松山市で開催された第18回全国高等学校総合文化祭に、佐波高等学校のマーチングバンドと、宇部女子高等学校、早鞆高等学校、三田尻女子高等学校の3校合同のバトントワーリング部の参加があり、レベルの高い演技を行なった。同部門は平素は地元の諸行事に積極的に参加し、地元の人々よりあたたかくむかえいれられています。

日本音楽部門

会場・下関市文化会館

理事長 中野 靖子

(中村女子高等学校教諭)

1. 山口県高等学校総合文化祭

平成6年度の山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門は、吟詠剣詩部門と一緒に、関門の街文化の香り高い、下関南高等学校を主管校として、6月19日下関市文化会館を会場として開催されました。今年は18校167名の参加でした。とかく洋楽器におされがちの昨今ですが、我が国古来の楽器を継承していくことを願っております。全国総合文化祭では、郷土芸能という部門がありますが、本県にはこの部門がありません。「陶ヶ岳太鼓」で活躍された県立聾学校の皆さんも日本音楽部門のなかで参加してくれました。嬉しいニュースとして、来年度から「平家太鼓」が新しくこの部門に加わります。日本音楽の一層の活気を期待しているところです。

平成7年度の大会は、柳井学園高等学校を主管校として、6月18日、サンビームやないを会場として開催する予定です。多くの学校の参加を期待しております。

終わりに、来年度の大会を開催するにあたり、御尽力を賜わりました下関南高等学校に対し、紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

2. 全国高等学校総合文化祭

8月5日、6日の2日間にわたり、四国の西端、宇和島市で開催されました。全国79校957名の参加だったと聞いております。本県からは下関南高等学校が県を代表し発表しました。来年度は新潟で開催され、柳井学園高等学校が参加する予定です。



▲中村女子高等学校

吟詠剣詩舞部門

理事長 藤井美恵子
(聖光高等学校教諭)

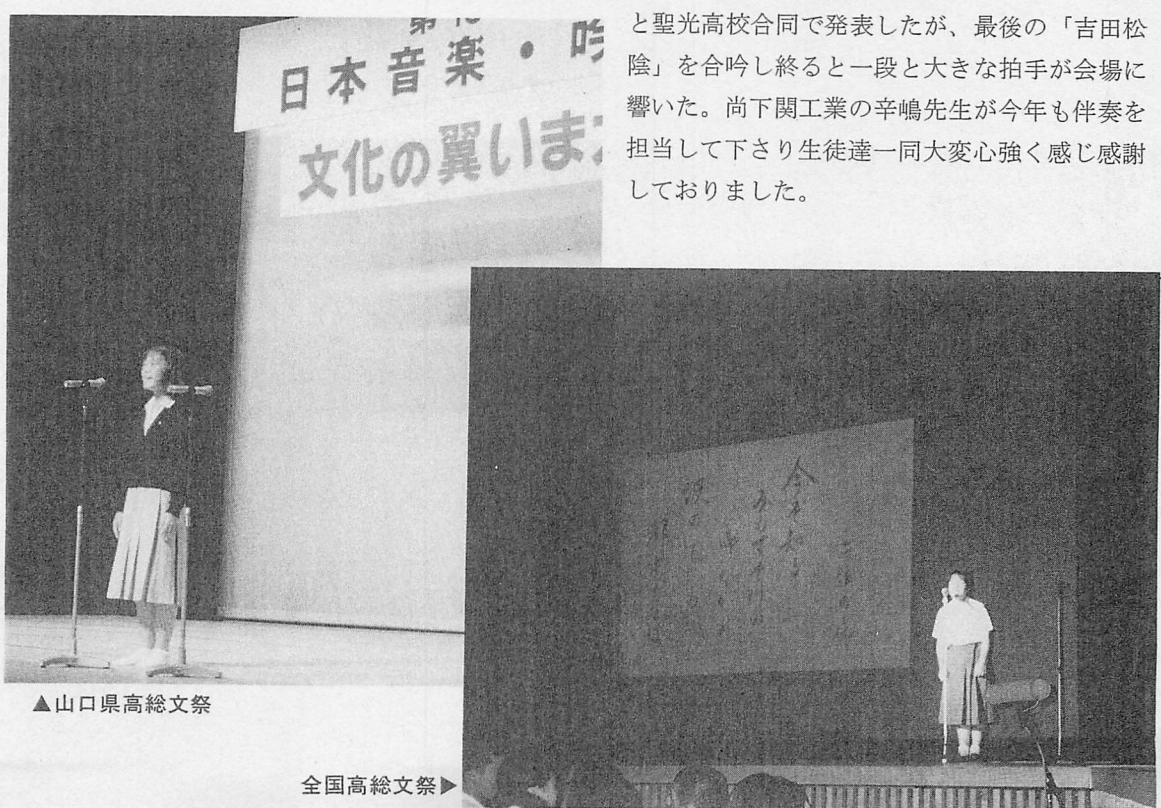
本年度の吟詠剣詩舞部門の活動状況をふり返ってみることにする。

まず、6月17日に宇部市渡辺翁記念会館で開催された山口県高等学校総合文化祭の開幕式典では書道吟「中庸」を発表したが、小野田工業高校の書道も、聖光高校の独吟も堂々とした発表で、総合開会式の式典に大変ふさわしいものであった。

6月19日は本部門と日本音楽部門の合同の発表大会が、下関南高校を主管校として下関市文化会館で開催された。この大会ではサビエル高校、中村女子高校、聖光高校が発表した。サビエル高校は初参加であったが「夏日偶成」は意

気の合った合吟を発表し又「富士山」の独吟は吟の心を全身でうたい聴衆を魅了した。又中村女子高校と聖光高校は「山口県の歴史を詠う」と題した構成吟を吟とスライドをまじえて発表した。吟でたどる山口県の歴史に接した若い高校生は、今さらながらその歴史の重みを深く心に刻んだことであろう。

本年度の全国高文祭吟詠剣詩舞部門大会は、8月5日愛媛県の新居浜市の新居浜市民文化センターで開催された。全国から集った高校生が若者らしい吟、剣舞、詩舞等を発表するごとに会場からは大きな拍手がおこった。山口県は、構成吟「山口県の歴史を詠う」を中村女子高校と聖光高校合同で発表したが、最後の「吉田松陰」を合吟し終ると一段と大きな拍手が会場に響いた。尚下関工業の辛嶋先生が今年も伴奏を担当して下さり生徒達一同大変心強く感じ感謝しておりました。



▲山口県高総文祭

全国高総文祭▶

美術・工芸部門

理事長 師井俊夫
(山口高等学校教諭)



▲県高総文祭展示部門オープニングセレモニー



▲県高総文祭美術・工芸部門（下関市美術館）

美術・工芸部門の平成6年度の活動は次の3つの事業である。

(1) 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

今年度の総合開会式慶祝展示は、6月17、18、19日宇部文化会館で行われた。美工部門の展示作品は、前年度の県学校美術展の優秀作品が選ばれ、岩国、岩陽、高森、徳山、山口、宇部、宇部中央、宇部西、宇部商業、厚狭、香川、宇部女子の各学校から1点ずつ出品された。各作品は力の入った、紹介するにふさわしい作品だったと思う。

高校生の作品はとにかく描き込むことだ。絵画を構成する要素は色々あるが、それ以前に描きたいものをどこまでも描き込んで欲しい。そうする内に構図や色彩、デッサン力等は後からついて来る。作品の力強さとは、描きたいものにどれだけくいこんでいるかだろう。このたび紹介された作品も含め、このような作品には作者の情熱を感じ好感がもてる。

(2) 全国高校総合文化祭展示部門

今年度の総合開会式は、8月4、5、6日愛媛県松山において開催され、美術・工芸部門は愛媛県立美術館で行われた。今年の夏は折からの水不足で、参加者はともかく主催者側はさぞかし大変だったことと思われる。山口県からは、(徳山高校)河村公子、(山口高校)矢野容子、(西京高校)林裕二、(宇部高校)福山由緒、(大津高校)伊藤理恵、の各作品が出品された。後述の全国総文祭の記録に出品者の一人、山口高校の矢野容子さんの感想文を掲載する。

開会式の夕刻パレードがあり、私も松山の目抜き通りで遭遇したが、各県代表が郷土を紹介すべき様々な装いで趣向を凝らしたパレードは圧巻であり、高校生の熱気がひしひしと感じられた。

(3) 県高校総合文化祭展示部門

今年度主管校豊浦高校より報告

書道部門

理事長 荒瀬 宏
(徳山高等学校教諭)

(県総合開会式について)

聖光高校女生徒の吟と小野田工高の書とで行われた書道吟は、リハーサルぬきで何とか厳粛な空間が創り出せました。読める文字と速書のむづかしさとの問題は永遠のテーマでしょう。練度を高め、呼吸をあわせることで、若さを爆発させたいものです。

また、別棟の展示会場では、宇部地区各校1点の力作が出品され、県教育長他来賓も鑑賞されました。書道部作品は稚拙さが高校生の苦腦の跡、真の高校生らしさだと強調してはみましたが……。あと一步、若さ、荒々しさなど意識して元気を出したいものです。各地域で変化に富んだ作品づくりを研究し、他部門に負けない日常の部活動が期待されます。

(全総文愛媛大会に参加して)

夏の異常渴水期の松山で、4校（下関西・山口・防府・熊毛北）が書の3分野にわたり、変化に富んだ壁面をつくり出すことができました。中でも、下関西の仮名臨書作品は全体の講評会で取り上げられ、まじめな部活動を評価されました。交流会では底部焼の皿に、自分の好きな言葉を書き、記念の品になったようです。この他に、生徒同志の対話が進むよう、楽しい会を企画してほしいものです。その際、引率教師も自由な交流ができると理想です。県代表者会議では、生徒作品の評価（審査）と教師の研修問題を提案し続けるつもりです。

(県総文展示部門発表会について)

天上の高い、立派な下関市立美術館が会場で、大・小様々な作品が陳列できました。審査の結果、下関西・小野田工・香川・徳山の4校が次

年度新潟大会へ参加することになりました。この他に優秀作品7点は3年生の練度の高い作品でしたが、残念ながら出品不可能です。次の北海道へ今から力作を競い合いましょう。

(山口県高校教員書作展について)

山口高校古屋先生の毎年のお世話で、大作と小品（漢字仮名交じりの書）とが左右に並べられ、各個人の多様な個性が楽しい展覧会となりました。暑い夏とはいえ、例年なく観客が多く、行事として地域に定着したと言えましょう。次回は山口を離れ、下関市立美術館で、生徒に負けぬ大作、力作を展示したいという願いが叶うことになりました!! 下関地区の先生方には特にお世話になりますが、超々大作を数多く出品したいものです。いずれ、要項制作中、ご案内の折にはご協力をお願いします。

(書道部門会議より)

12月5日、徳山高校において、吹奏楽部門と合同開会式を行ない、部会長（繁富校長）文化課（中井指導主事）の芸術教育に対する高い識見を聞き、感銘を受けました。

書道部門は殺風景な書道教室へ移動し、17名の参加者が活発な意見交換をしました。今年の反省として、講評会のあり方、審査についての意見が多く出されました。県総文の講評はもつとていねいに、2人以上の先生の意見を聞くこと。審査方法は、フェヤーに出品校名をかくして、陳列前に投票すること、後の合議を徹底することなどが要望として出されました。この際、地区委員（審査員）が互選され、新しく若い人が加わりました。岩柳（岩見屋）、徳山（荒瀬）、山防（有富）、宇小（松田）、下関（井上）、長北（佐

川) 以上6名で2年間担当します。

昼食は校内地下食堂で済ませ、県書連会長宇山栖霞先生宅へお伺いしました。数々の模本、名硯などを拝見し、感激して帰りました。特に、

仮名の古筆の觀方、習い方、プリント術への見識が一変しました。部会長も参加され、1時間半の研修で多くの知恵を得、楽しいひとときでした。

各部門の報告

写真部門

理事長 伊藤健司

(南陽工業高等学校教諭)

1. 県総文祭総合開会式

本年度は宇部高校主管のもと、6月17日に宇部市渡辺翁記念会館・宇部市文化会館で開催されました。写真部を含めた展示3部門は、宇部市文化会館1F第3展示室において、慶祝展示を行いました。写真関係は、本年度の全国大会(愛媛大会)に出品予定の4点と、地元の宇部高校と小野田工業高校から1点づつの計6点ほど展示しました。高校野球の作品が3点あり、高校生らしさがよくでた作品ばかりでした。

2. 全国総文祭愛媛大会

8月4日から8日までの5日間、愛媛県松山市の愛媛県県民文化会館「真珠の間」で開催されました。山口県からは、下記の4点を出品しました。

『切り取られた青春』 柳井高 森宅 勇
『敗・先輩の一言』 小野田工高 田村忠治
『漁村』 美祢工高 河地央行
『夏の日』 徳佐高 河村康弘

この中で、柳井高校の森宅勇君の『切り取られた青春』という作品が奨励賞を受賞しました。この作品はダブルプリントという技巧を使い、テーマを作り上げた面白い作品でした。会場には全国から約300点の作品が展示されていました

が、どの作品もすばらしく全国の高校生の写真技術の高さに改めて感心させられました。

また、本年度の撮影会は、古い家並みが旅人を過ぎ去った時間へと誘う内子町並み保存地区で行われ、笹飾りをバックにモデルによる撮影会になりました。講演会や講評会多くの高校生や先生方の参加の下、有意義な大会となりました。

3. 県総文祭展示部門

本年度は豊浦高校の主管のもと8月25日から28日の4日間、下関市立美術館で開催されました。14校78点の参加があり、全日本写真連盟西部本部委員・岸準一氏の審査により次の5点を来年度の全国大会(新潟)に出品することになりました。

『もがく』	柳井高	宮本正明
『たたき売り』	小野田工高	石島三男
『愛犬 もも』	美祢工高	吉田喜弘
『勝利への祈り』	"	吉村純一
『漁のあと』	"	岡崎裕幸

やはり本年度も暗室技術の差がかなりあり、上記の作品は技術的にも他の作品を圧倒しており、順当に選ばれたという感じがします。

囲碁部門

理事長 長井貴宏
(萩高等学校教諭)

平成6年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は、次の3つの事業でした。

1. 県総文開会式典の慶祝展示

本年度は宇部高校の主管のもと、6月17~19日に宇部市文化会館において開催されました。内容は平成5年度までの各大会の結果報告で、宇部高校の藤原信二先生と生徒諸君に企画運営をして頂き、大変感謝しています。

2. 第16回県総文囲碁部門第6回大会兼全国高文連囲碁部門第8回大会県予選

10月24日(日)に萩高校において開催されました。参加選手は男女計63名で、それぞれが真剣に取り組み、最後まで熱戦を繰り広げました。なお、個人戦優勝者5名は、平成7年8月6、7日に新潟市で行われる全国高文連囲碁部門の大会へ参加する予定です。

3. 山口県高文連囲碁部門研修会

萩高校主管のもと、平成7年1月29日(日)に西日本公務員学校で行う予定です。内容は、理事を中心にして、渡辺堅一プロ(日本棋院六段)に対局指導をして頂きます。

以上3つの事業活動において、特に宇部鴻城高校の黒瀬孝泰先生に適切な御指導を頂き、大変感謝しています。

現在、囲碁は小学生からお年寄まで男女を問わず、世界中に広く普及しています。室内の頭のスポーツとしては最高のゲームであり、ルールも簡単で経費もかからず、一人でも楽しめる競技です。来年度は小野田高校に事務局が移り、お世話されます。どうか今後各事業活動へ、一人でも多くの方が参加されることを希望しています。



▲県総文囲碁部門（萩高校）

演劇部門

理事長 石井末雄

(下関商業高等学校教諭)

〔役員の交代〕

山口県高等学校演劇協議会の生みの親であり、山口県の高校演劇の育成と向上、発展のために多大の貢献をされ、山口県高文連の理事長を長年にわたり務められた西村司先生が現役を引退されることになりました。先生の存在と役割があまりに大きかったために、その後を引き継ぐことに難渋をきわめましたが、せめて2人体制にしてこの難局をきり抜けようということになり、理事長を石井が務め、県立下関南高校の金森先生に事務局長をお願いすることになりました。

未知のことばかりで、試行錯誤しながら、4月以来、8月の第18回全国高校総文(愛媛県)、10月の第16回山口県高校総文(宇部市)、11月の中国地区高校演劇大会(島根県)と2人で協力しながらのりきってきました。微力ながら精一杯がんばるつもりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

〔県全体の動向〕

地区大会への参加校は、周防地区6校、山防地区8校、宇部地区7校、下関地区11校の合計32校で、大体例年並みですが、萩地区では、まだ地区大会を開くところまで至っていません。

また、毎年連続しては参加できない学校が数校あります。そういう学校では、部員が集まらず、演劇部の消長をくりかえす不安定さがあります。そこでは、演劇部顧問の熱意が大きなウエイトを占めているように思われます。

これらの課題を克服して、参加校をより多くふやしていくことが求められています。

「天国」はいらない(厚狭高)▶

〔地区大会〕

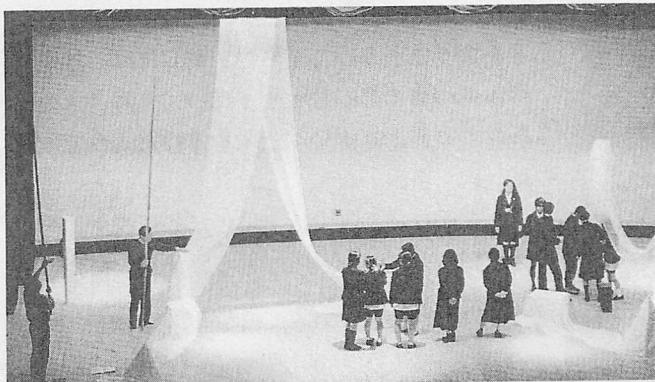
地区大会で感じることのひとつは、上演される演劇のレベルに差があることです。いわゆる演劇の基本ができていないものがいくつか見受けられます。台詞を発するたびに身ぶり手ぶりが激しく、身の置きどころがないように舞台上を絶えず動き回っている、舞台で恥かし気な態度を見せる、などがそれです。

もうひとつは、経費の関係で、設備の整った会場の確保ができず、やむを得ず、ホリゾントの設備もない会場で開催しなければならない状況があるということです。

一方、下関地区では、昨年来、市内11校の合同公演を3月の春休みに開催しています。これは、演劇部員が「演劇とは何か」を知るうえからも、また、演劇の技術的な側面に成熟する点からも有意義な取り組みになっているようです。確実に各校の演劇部の刺戟剤になっています。

〔講習会について〕

今年度は、'95年3月22日、周東町パストラルホールで開催する予定です。講師には、念願の西村司先生をお迎えすることにしています。大きな成果が期待されるところです。



放送部門

理事長 青木 幸子
(山口中央高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟に、放送部会が加盟し、記念すべき第1回の放送部大会が11月6日山口県立西京高等学校で行なわれました。

第1回目とは申しながら、全国総文における放送部大会にむけての選考も兼ねる大会であつたため、アナウンス、朗読という個人の発表を目的とするものに加えて、ビデオレター、オーディオピクチャーという、部員の力を総結集しての作品発表の部門も設けました。

参加要項が決定し、参加作品しめきりまでが短い期間であったにもかかわらず、多くの生徒が参加してくれたことを大変うれしく思いました。放送活動を通して、心のふれあいの場をつくること。放送活動にかかる仲間同志の交流を深めること。これを本大会の目標と考えてのスタートでした。その趣旨に心から賛同下さった山口放送から、アナウンス部課長の勝津正夫さん、テレビ制作部次長の城菊子さんが、審査員として、おいで下さいました。

放送部大会は、1日の行事ですが、大会そのものは、前日からはじまっているのです。本来なら主管校であるところの山口中央高校が会場校をひきうけるべきですが、移転という問題もあり、西京高校の諸先生方が、会場校になることを快くひきうけて下さり、前日には、放送部員以外の多くの高校生も手伝ってくれ、大会にむけてのあたたかいエールをうけたようで、役員一同、感激いたしました。

大会当日は、百人以上にのぼる高校生、そして顧問の先生がおいで下さり、静かな緊張の中で大会がスタートしました。



▲県総文放送部門（朗読）

真剣な表情でアナウンスする生徒に、ひきこまれるかのように、会場は物音一つしない静謐さ。苦労して取材し、まとめあげたアナウンスマントだけに、どの話題も興味深いものでした。朗読部門は、山口県出身の作家という規定にのつとて生徒は様々な本搜しにやつきとなった様子ですが、芥川賞作家の高樹のぶ子さんや直木賞作家の伊集院静さんの作品に人気があつまっていました。午前中の緊張した空気から解放された、午後のビデオレター、オーディオピクチャー部門でも、生徒は熱心にスクリーンをながめ、オーディオピクチャーにおいては、目をつぶって熱心に聞き入る姿もみられました。

審査員の先生は、発声発音からはじめアナウンス原稿のかき方、話すとはどういうことなど、多岐にわたる具体的な指導を下さいました番組制作のプロから教わった様々なものを明日からの部活動に活かすのだと、どの生徒も感動



▲県総文放送部門（西京高校）

のおももちでした。

本大会で1番の盛り上がりを見せたのは、生徒同志の交流会。各校の実状を発表し、うちも、うちもと、自分達の抱える問題を吐露し、胸がスッキリしたところで、各々の問題点と解決する方法を考え、意見を出しあう。放送に携わる仲間としての意識は、この交流会でグーンと高まつたと大会終了後、どの生徒も、満足気な顔で語ってくれました。

練習方法、作品制作におけるノウ・ハウ、諸

問題解決のためポイントなど、各校独自の方法を持ちよって、具体的に交流し合うという、はじめての機会を持つことができた。これが、本大会の大きい収穫だったと思われます。

高校生ならではの、フレッシュな、エネルギーッシュな作品が、ひしめきあっている。そのような第2回大会をめざし、顧問同士も交流を深め、指導のための研修に励んでいきたいと思っています。多くの人々に支えられ、第1回大会が無事に終わったことを感謝しています。

総合開会式

於：宇部市渡辺翁記念会館

主管校 繩田正規

(宇部高等学校教諭)

▼第16回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式 宇部市渡辺翁記念会館



第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式は、『文化の翼いま天空へ テイクオフ』のスローガンのもと、平成6年6月17日(金)、改装新たな宇部市渡辺翁記念会館で開催されました。

幸いにも当日は天候に恵まれ、高浜哲県教育長をはじめ、藤田忠夫宇部市長など多数のご来賓をお迎えし、専門部を代表する約650名の出演者と、会場を埋めつくした約1,400名の市内高校生で熱気につつまれた式典となりました。

さて、前年度主管校（山口高校）から事務引き継ぎをした後、校内準備委員会を発足させ、それからの数ヶ月間は大会の規模や内容、経費の問題、役割分担、生徒動員、あるいは準備日程などについての検討をすすめてきました。

特に今回は、これまでの開催地と比べ、ハー

ド面（会場の施設設備）やソフト面（運営）に多くの問題を抱え込んでいたばかりか、メイン会場である渡辺翁記念会館の改装内容が、竣工の4月末にならないと確認できないという事態も加わり、まさに暗中模索のまま、大綱決定の高文連運営企画会議（2月）に臨みました。

最終的には、これまでの大会と違った幾つかの付帯条件をご了解いただくことで、なんとか運営できる見通しとなりましたが、このことにより、参加された多くの方々にご迷惑をおかけしてしまいました。

一方、大会規模に伴い、会場費を中心に相当の運営費が必要なことから、全教職員の理解・協力を第一に、何度も協議を重ね、主管校として学校あげての取り組みを考え、全教職員による一人一役を確認しました。

また、地区内の各学校にも経費面での協力をいただき、あわせて協賛広告や市に補助金をお願いするとともに、お金のかからない大会運営を念頭に計画しました。

当該年度に入ってからは、準備委員会を実行委員会に拡大発展させ、各部の専門理事長、長南地区の先生方、主管校の教職員を加え、具体的な仕事内容を把握するとともに、それらに必要な準備にとりかかっていただきました。

その後は、紆余曲折を繰り返しながらの毎日ではありましたが、それぞれの立場で多くの先生方のご協力で、なんとか諸準備を整えることが出来ました。

特に、経費節減のために、大会プログラムをワープロで作成したり、楽器搬入口の雨天対策が常設の設備では不可能なので、担当者の知恵

と労力で設置したりするなど、他では考えられない苦労も数多くありました。

開会式当日、6月17日(金)午後1時。宇部中央高校生徒代表井上幸江さんの開会宣言に続き、宇部地区高校合同吹奏楽団の演奏するファンファーレが会場内に響きわたり、式典は順調にスタートしました。

「高文連の歌」の演奏にあわせて各専門部の代表が入場し、桂雄三高文連会長のあいさつ、来賓の祝辞や歓迎の言葉、功労者表彰、各部紹介など、予定どおりの内容で、平成6年度山口県高等学校総合文化祭が幕開けしました。

午後2時から行われた専門部による慶祝演奏は、県立聾学校の「陶ヶ岳太鼓」をトップに、書道吟、マーチングとバトン、吹奏楽、オーケストラと合唱による演奏や演技で、そのいずれ

◀総合開会式
主管校生徒代表
宇部高校 三戸直人君



もが山口県の文化水準の高さを示したものでした。

なかでも、身体の障害にもめげず全員で心を合わせて打ち鳴らす「陶ヶ岳太鼓」は、昨年同様深い感動を与えてくれたステージとして特筆すべきです。

さらに、これらのステージの司会進行や幕間のインタビューは、今年から新しく高文連に加盟した放送部の担当です。絶妙な会話で会場内を盛り上げながら、新しい部としての出発をしました。

一方、隣接する宇都市文化会館展示ホールでは、開会式にさきがけて午前9時から慶祝展示が行われました。美術・工芸、書道、写真、囲碁など県内各高校から出展された力作ばかりで、たくさんの鑑賞生徒で賑わっていました。

大会を振り返ってみると、運営担当の一人としてさまざまな問題に直面させられました。

「高文連」とは何ぞや？ どうしてこんなにもお金がかかるのか？

このような問い合わせに対し、自分で答えを見いだしていたつもりですが、現実にはたくさんの壁を感じます。

高等学校の部活動を2分する「高体連」と「高文連」とは、その歴史的経緯からして同等に考えるには時期尚早と思われますが、このような大会を県内各地で開催することにより、少しでも文化活動の「ともしび」を広めていければと切実に願っています。

と同時に、それに携わる一人として、改めて責務を痛感させられた大会でもありました。

たくさんの先生方、生徒諸君本当にありがとうございました。そして各関係機関の方々にも随分とお世話になりました。あらためてお礼を申させていただくとともに、これからも宜しくお願いします。



◇慶祝演奏

〈日本音樂〉 陶ヶ岳太鼓

〔出演〕 肇学校高等部

〈吟詠劍詩舞・書道〉 書道吟「中庸」

〔出演〕 聖光 小野田工業 各高等学校

〈マーチングバンド・バトントワーリング〉

「ロマンスの神様」

「YAH YAH YAH」

〔出演〕 山口県鴻城 宇部女子 早鞆

三田尻女子 各高等学校

〈吹奏楽〉 コンサートマーチ「ティクオフ」

「メインストリートで」

〔演奏〕 宇部地区高校合同吹奏楽団

〈合唱・管弦楽〉 大地讃頌

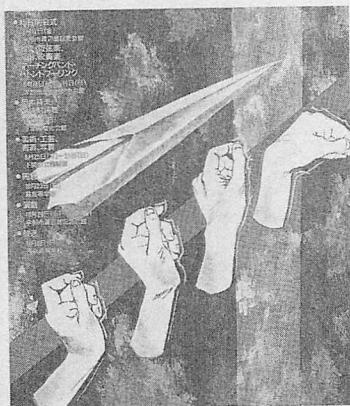
歌劇「タンホイザー」より大行進曲

〔演奏〕 山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

全員合唱「みんなのふるさと」

文化の翼いま大空へ テイクオフ



◎平成6年度
山口県高等学校総合文化祭

主催 山口県高等学校文化連盟・山口県・山口県教育委員会

◀宇部高校
福山由維さん
のイラスト

▼受付風景



▲慶祝展示会場



▲高文連放送部によるインタビュー

音楽関係 4 部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場・宇部市渡辺翁記念会館

理事長 松永忠雄

(下関南高等学校教諭)



▲—器楽・管弦楽—（下関南高等学校）

平成6年度の第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式、および高文連音楽関係4部門による各高校の発表・演奏は、6月17、18、19日の3日間、新装なった宇部市渡辺翁記念会館において行われました。

器楽・管弦楽部門にはオーケストラ4校、ギター・マンドリン合奏3校、弦楽合奏1校の参加があり、多数の参加があった吹奏楽部門(50数校)に混じって一服の清涼剤ともいえる立派な演奏を披露して、大会を盛り上げました。

しかし、なんといっても、例年行われている開幕式典でのオーケストラとコーラスによる慶祝演奏(曲目“大地讃頌”“タンホイザー”)は圧巻で、宇部市渡辺翁記念会館のステージいっぱいとなった出演高校生の若い、力強いサウン

ドがホール全体に響き渡りました。300名を越える混声合唱と80名近い人数で編成されたオーケストラによる合同演奏はスケールが大きく、式典当日の朝だけという短時間の合同練習また狭いステージといったハンディにもかかわらず、繩田正規先生(宇部高校)の情熱溢れる指揮によるその演奏は聴衆に深い感銘を与えたことは勿論のこと、出演者生徒も大いなる感動を体験しました。

管弦楽は技術や編成、あるいは普及など見るに、一部を除いて「まだまだ」という現状があります。また、ギター、マンドリンなども一般的には愛好されて普及しているように思われますが、本格的な合奏となると、これまた決して十分とは言えません。

ともあれ現在、山口県内で部活動としてオーケストラを組織している高校は4校、ギター・マンドリンは4校。全国的にみても少ないと思われます。「高校レベルでは技術的にも経済的にも無理だ」という声もありますが、ハイレベル

な吹奏楽活動が実践されている今日、出来ないことはありません。山口県内に立派なスクールオーケストラやギター・マンドリン合奏が誕生することを願っています。

第16回県高総文祭の記録

合唱部門

会場・宇都市渡辺翁記念会館

理事長 石島栄子

(野田学園高等学校教諭)

平成6年度山口県高等学校総合文化祭の音楽部門の発表会は6月18日(土)、19日(日)の2日間、宇都市渡辺翁記念会館にて開催された。前日の開幕式典の大合唱の興奮も醒めぬままの会場で高校生の熱心な演奏が続いた。

今年は舞台の狭いこととピアノ移動が大変困難な中、宇部地区の方々のご尽力でスムーズな運営が成されたことを感謝している。合唱部門の発表はそのため出来るだけプログラムを続けるという方針で構成された。少人数の集中力ある演奏や、心の籠もった訴える音楽、また、大編成による迫力ある合唱とそれぞれの個性を発

揮しての演奏であった。全部で11校、計281名。なかでも始めての出場校である奈古高校の女声合唱は反響が大きかった。ますますの合唱部門の広がりを望みたい。合唱部は基礎の声作りに大変時間が掛かるので根気がいり、大変だが奥が深く楽しいものである。願わくはもっと合唱部門の参加が増えることである。また歌うだけでなく、もっと表現の幅広さ、演技力を含めて合唱表現の研究を試みもっともっと合唱が楽しく深いものであることを追求してゆきたい。

歌うことは訴えること！

歌うことは演じきること！



▲宇部中央高等学校

吹奏楽部門

会場・宇部市渡辺翁記念会館

主管校 縄田正規
(宇部高等学校教諭)

第16回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、総合開会式の翌日、6月18日(土)、19日(日)の2日間、宇部市渡辺翁記念会館で開催されました。

第1日目は、予想(?)どおりの大雨。覚悟はしていたものの大変な1日でした。

さて、この発表会には、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワーリングの音楽4部門、あわせて65校、78団体、2,820名の参加者がありましたが、なかでも吹奏楽部門は、55校、2,117名と参加が一番多く、趣向をこらした熱演が2日間にわたって続きました。

毎年、開催地区の音楽的・技術的レベルアップを図り、学校間の交流を促進する趣旨で、地区合同吹奏楽団(モデルバンド)を編成していますが、今回は長南地区を代表して宇部市内5校(宇部西・宇部商・香川・宇部女子・宇部)の部員約100名で結成し、総合開会式の式典音楽

を担当するとともに、吹奏楽部門を代表して慶祝演奏に出演しました。小野田高校古野先生を音楽監督として、当日まで3回の合同練習会を実施しましたが、それなりの演奏ができたと思います。

今回の音楽4部門発表会は、会場の機能面と運営上の都合で次の3点について、これまでの大会と異なった形をとらせていただきました。
(1) 各団体の発表時間を8分から7分に短縮する。
(2) 打楽器の位置固定。
(3) ピアノの使用がステージの関係で限定されるため、ピアノを使用する部門を集中させる。

ご無理なお願いばかりで心苦しく思っておりましたが、ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。

いずれにせよ、2日間の日程はみなさんのご協力により、なんとか予定どおり終えることが出来ました。



▲下関商業高校

開会式や閉会式でいさつをしてくれた宇部女子高校および香川高校の生徒代表、司会進行を担当した宇部高放送部など音楽関係以外の生徒諸君にも大変お世話になりました。最終日の閉会式では下関商業高校吹奏楽部の伴奏で「ふ

るさと」を全員合唱し幕を閉じました。

下商吹奏楽部の皆さんには、鳴りやまぬ拍手に応えて、アンコール演奏までしていただきました。末筆ながらお礼申し上げます。

第16回県高総文祭の記録

マーチングバンド・バトントワーリング部門

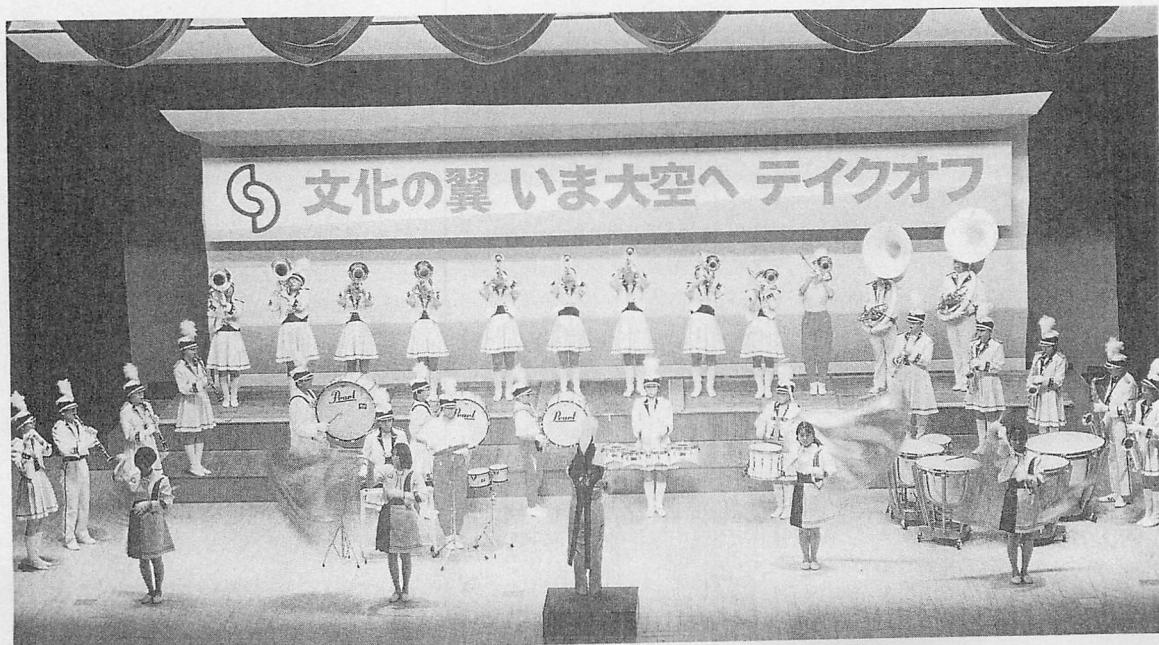
会場・宇部市渡辺翁記念会館

理事長 花村 慈照

(宇部女子高等学校教諭)

今年度の山口県高等学校総合文化祭は6月17日(金)、宇部市渡辺翁記念会館で総合開会式が行なわれ、慶祝演奏で山口県鴻城高等学校のマーチングバンドの演奏で、早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の三校合同のバトントワーリングの演技で『ロマンスの神様』『YAH、YAH、YAH』の曲にのって観客席の間で演奏をしました。今年度初めて山口県鴻城高校が参加され、本番当日初めて四校が集まり、数回の練習により本番となり、すばらしい

演奏、演技でした。2日目の6月18日(土)は音楽4部門の発表会では、今年度はじめて、カセットテープによって演技を行なった。早鞆高校は『花時計』、宇部女子高校は『キャツ』、三田尻女子高校は『メモリ、オブ、アモーメント』の演技を行ない、19日(日)は佐波高校のマーチングバンドが『ディズニーミュージカル(アラジン)から』をステージドリル演奏を行ない会場から大きな拍手を受けました。



▲佐波高等学校

県高校総文に参加して

早鞆高等学校ダンス部

田中 瑞江

三年生になってクラブにおける責任が大きくなってしまった一学期、この大会に発表する作品作りは、私にとっては非常に苦しいものでした。曲は『花時計』ツィターの演奏による、すばらしく優雅で美しい曲と、リズミカルなバトンとの融合をどういう形にするか、むつかしい、むつかしいの毎日でした。フープバトンで始めと終りを花時計のイメージとして表現し、主要部分はバトンで演技をしました。一つの作品が完成した喜びは得がたい経験だったと思います。

ステージでのインタビューでドキドキし、あつ

というまに本番、拍手の中で終った、と実感。

三年間のこの県総文、毎年の発表に参加できて本当によかったです。

県総合文化祭に参加して

宇部女子高等学校バトン部

内山 加奈子

私は始めて大きな会場でバトンの演技をしました。毎日毎日出場のための練習を行なってきました。練習場所として『サンライフ宇部』『俵田体育館』などで日曜日も祭日にも練習をしてきました。『サンライフ宇部』の練習の時には苦しい場面も何度も何度もあり、本番までの間で何度も挫折をしかけました。発表の当日私は自分がチームに迷惑をかけはしないかとか、バトンを落としあないかとか心配と不安で胸がいっぱいでした。本番直前、幕の内側で出番を待っている時は手に汗がたっぷり、心臓がドキドキしていました。曲がなり演技が始まりそして終るまで必死で笑顔をつくり、全力でがんばりました。しかしバトンは落してしまいましたけど、とっても気持ちがよかったです。そして笑いが止まりませんでした。苦しい練習をし、一つの演技が終わり本当にバトンをしてよかったですと心から思いました。



▲宇部女子高等学校



▲早鞆高等学校

日本音楽部門・吟詠剣詩舞部門

会場・下関市文化会館

主管校 窪田 悠子
(下関南高等学校教諭)

「文化の翼いま大空へ テイクオフ」というテーマのもと、第16回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表大会が、下関市文化会館にて行われた。日本の伝統芸能である日本音楽・吟詠剣詩舞は若い愛好者は少なく、従って当然日頃の成果を発表する場もありない。学校の部活動、あるいはクラブ活動でこうした伝統芸能に取り組んでいる生徒たちにとっては、この総合文化祭は唯一といつていいほど大切な大会であると思う。

ところが、軽やかな飛翔の姿を連想させる大会テーマとは裏腹に、運営準備の方はなかなか「ティクオフ」とはいかなかつた。箏曲部顧問も初めてなら、主管校も初めてという状況の中で、

いつまでもぐずぐずと飛び立たない我が機に、沢山の方々が整備をし、指示を与え、燃料をつぎこんでくださった。特に理事長の中野靖子先生には何度も下関にお運びをいただき、何とか無事に離陸することができた。多大なる御協力と御指導をいただいた諸先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

さて、県大会は時折小雨のぱらつく梅雨空のもと、県下19校総勢約180名の出場をいただき幕を開けた。前日の雨による交通機関の乱れで、出場順を急きょ変更するというアクシデントはあったものの、各校とも素晴らしい発表であった。吟詠剣詩舞部門初出場のサビエル高校を始め、躍動感あふれる陶ヶ岳太鼓を披露してくだ



▲山口高等学校

さった聾学校、御近所同士で合同演奏に挑戦なさった久賀・岩国両高と、枚挙にいとまがないほどである。特に「山口県の歴史を詠う」と題して、弥生時代から動乱の幕末までを発表された中村女子・聖光両校の朗々とした声は、会場を魅了したことと思う。ただ会場の都合上、通路や部屋が手狭で、調絃や楽器の搬入等に御不自由をおかけしたことをお詫びしておきたい。閉会式においては、厚狭高の松村房子前教頭先生、下関工業高の辛嶋茂樹先生より、御講評をいただいた。両先生とも伝統芸能を受け継いでいくことの大切さに触れられ、仲間を増やしてより多くの大会参加者を得たいものであり、また、卒業してもぜひ続けてほしいものでしたとおっしゃったのが印象に残ったことであった。

下関南高の箏曲部は総勢20名。全国大会へは2・3年生12名で出場した。県大会は、沢山の人々に支えられ、協力していただいて無事に終ることができたが、これから先は我々が頑張らねばならない。「節水に協力しよう」を合言葉にして、牛鬼で有名な愛媛県宇和島市に乗りこんだ。2日間にわたったこの大会は、我々にとって「カルチャーショック」以外の何物でもなかった。古曲に固執せず、新しいものにどんどん挑戦していくその姿勢は、部員たちにもよい勉強になったことと思う。県大会でもいろいろと勉強させていただくことが多かったのだが、ましてや全国大会である。日本音楽の奥深さや素晴らしさを知るためにも、ぜひ多くの本県の高校生に、この全国大会を経験してほしいものである。今回我々にその機会が与えられたことを心から感謝申し上げたい。



◆受付風景



▲県総文 日本音楽・吟詠剣詩舞部門会場 下関市文化会館

展示関係部門

会場・下関市立美術館

美術・工芸部門

会場・下関市立美術館

主管校 新谷 勉

(豊浦高等学校教諭)

平成6年度第16回山口県高等学校総合文化祭
展示部門（美術・工芸、書道、写真）は、8月
25日(木)～8月28日(日)の4日間、下関市立美術館
で開催された。約9カ月にわたる準備ならびに
開催運営は豊浦高校を主管校とする豊関地区の
10校の協力によって行われ、美術館1階の全ス
ペース（展示室、講堂、光庭）を使って、美術
・工芸、書道、写真作品が、所狭しと展示され
た。オープニングセレモニー、講評会も催され
て、盛会裡に終了した。

実施日程ならびに運営に携わっての反省・感
想は以下の通りである。

実施日程

1. 12月初旬 開催場所の下関市立美術館の会
場確保交渉を行なう。
2. 3月初旬 会場を下関市立美術館に決定。
3. 4月下旬 校内委員会を発足。
4. 5月30日 第1回運営委員会 10時より
豊浦高校会議室

出席者

主管校 豊浦高校（河村校長、新谷（司
会）、渡辺、塚本）

協力校 長府高校（田中）、下関西高校（生
田、好川）、下関南高校（福川、美間）、



▲下関市立美術館 展示風景

下関中央工業高校(浴野)、下関工業高校(今西)、下関商業高校(宮崎、田中)、早鞆高校(波多野、隅川)、下関養護学校(朝田)

前年度主管校 西京高校(金子)

次年度主管校 岩陽高校(島田)



▲オープニングセレモニー



▲〈生徒代表あいさつ〉

豊浦高校 津田浩志君

各専門部理事 〈美術・工芸〉山口高校

(師井)、〈書道〉徳山高校(荒瀬)、

〈写真〉南陽工業高校(伊藤)

県教委文化課 (中井指導主事)

高文連事務局 (中邑事務局長)

協議事項

開催要項、看板、出品目録、名票、賞状、審査、講評、来賓、豊岡地区の協力校生徒の動員、宣伝、次期主管校等

5. 6月28日 全県各高校(盲・聾・養護学校の高等部を含む)へ開催要項を送付。

6. 7月5日 運営委員および市内生徒の派遣を依頼。

7. 7月15日

- 審査員および講師の依頼(写真部門)
- 教職員および生徒の派遣依頼。
- 市教委、市内中学、高校へ案内状を発送。
- オープニングセレモニーの案内状の発送。
- 講評会の案内状の発送。

8. 8月3日 出品申込締切。

9. 8月17日 第2回運営委員会 細案を決める。(とくに、オープニングセレモニー、動員・当番の再確認、搬入出・展示等)

10. 8月19日 各報道機関に案内状を発送し、



▲展示部門 会場 下関市立美術館

宣伝を依頼。

11. 8月23・24日 作品の搬入。
12. 8月24日 作品展示、審査会、看板、マイク準備、オープニングセレモニーの最終打合せ。
13. 8月25日 会期第1日目
オープニングセレモニー
- 8月26・27日 会期第2・3日目
- 8月28日 会期最終日
講評会、作品撤去、搬出、賞状渡し。
14. 8月29日 返送作業
15. 10月25日 決算報告

○入場者数

8月25日	560名
8月26日	115名
8月27日	189名
8月28日	660名

総入場者数 1,524名

- 出品総数 273点（美術121点、書道74点、写真78点）
- 優秀作品 28点（美術12点、書道8点、写真8点）

そのうち下記が全国大会出品候補作品。

美術	山 口	2年	矢野 容子
	宇部中央	2年	後藤 桂子
	下関商業	2年	大柿 美佳
	下関中央工業	2年	上野 陽介
	萩工業	1年	末益 慶子

書道	徳 山	2年	折戸 公彦
	小野田工	1年	山田 弘二
	香 川	1年	山下由紀子
	下関西	2年	問山 聰美

写真	柳 井	2年	宮本 正明
	小野田工	1年	石島 三男
	美称工	2年	吉田 喜弘
	"	2年	吉村 純一
	"	1年	岡崎 裕幸

反省・感想

1. 展示日（8月24日(水)）が美術館の開館日だったので、一般入館者の迷惑にならないよう配慮した。作業は静かにやるように申し合わせ、エントランスホールと展示会場の境にフェンスを設けた。
2. 審査方法については、美術では同一学校の作品が1ヵ所にかたまらないよう配慮しながら展示作業を行い、名票は伏せておいて、全作品通し番号での投票を行うことで公正を期した。開票の結果、上位11点を優秀作品（全体の10分の1）とし、また特殊学校の作品5点の中から1点を優秀作品とした。（投票の際、学年および部門は考慮にいれない。）書道では審査員全員が3年生から4点、1・2年生から4点を選び投票し、得票数の多い方から優秀作品を決定していった。
3. 写真では岸準一氏（全日本写真連盟西部本部委員）に全審査を依頼した。
4. 開催期が4日間に伸びたこともあり、中2日間の入場者減を心配したが、常設展鑑賞の一般入館者も多人数あり、コンスタントに会場内には何人かの人が作品に観入っていた。
5. 今年度は講演会を中止して、その時間を講評会にあてたのであるが、どの会場においても、一杯になるほどの多くの生徒や保護者および先生方が参加され、生徒と講師の先生方の熱のこもった質疑応答が続き、少々時間不足気味であった。
6. オープニングセレモニー終了後、出席生徒にジュースを無難作に手渡していたが、一部の生徒や保護者にとって、参加賞であり感謝状に変わるものであると後で気がついた。このような粗雑な心配りの無さが随所に出ていたのではないかと心配である。

書道部門

会場・下関市立美術館



▲会場風景



全国大会出品候補作品▶

▼展示風景



写真部門

会場・下関市立美術館

理事長 伊藤 健司

(南陽工業高等学校教諭)

本年度は豊浦高校の主管のもと、8月25日から28日までの4日間、下関市立美術館で開催されました。昨年度と同様に開催日が夏休みということで準備不足のためか、参加校が昨年度より1校減少しました。部員不足もあるでしょうが来年度は11月に岩国市民会館で開催されますので、十分準備され多くの学校の参加を期待します。

今回の審査は、全日本写真連盟西部本部委員・岸準一氏に依頼し、審査並びに講評会における講評をお願いしました。審査の方では、着眼点・構図・焼きを中心に審査されていたように思われます。今回も焼きの甘い作品が目立ち、暗室技術の向上が望まれます。また、講評会では会場一杯になるほどの多くの生徒及び先生方が参加していただき大変好評でした。

下記に本年度の参加校・全国大会出品候補作品・優秀賞受賞作品を紹介します。

(参加校)

岩陽	柳井	熊毛北	徳山
南陽工	西京	宇部	宇部商
小野田	小野田工	美祢工	下関南
下関商業 三田尻女子			

以上14校 78点

(全国大会出品候補作品)

『もがく』	柳井	宮本	正明
『たたき売り』	小野田工	石田	三男
『愛犬 もも』	美祢工	吉田	喜弘
『勝利への祈り』	"	吉村	純一
『漁のあと』	"	岡崎	裕幸

(優秀賞)

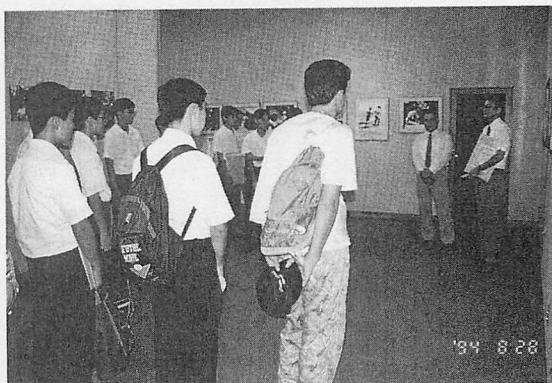
『ねこ』	柳井	斎郷	裕行
------	----	----	----

『フロイト』 宇部 亀井かんな

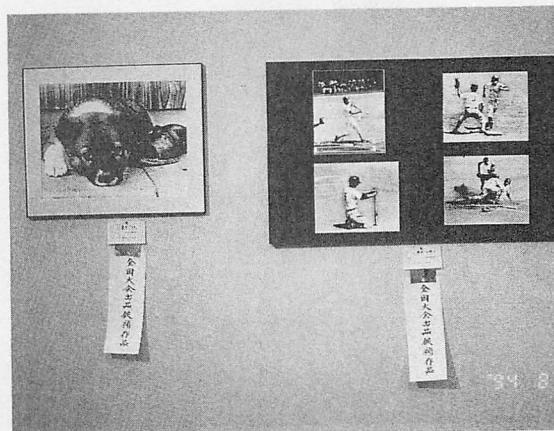
『黄色い声援』 下関商業 松田 道治

今年から写真甲子園という全国規模の大会が始まりました。いろいろな大会に参加して腕を磨くのも一つの方法であろうと思います。来年のこの大会にすばらしい作品が数多く出品されることを期待します。

最後に、作品の展示並びに撤去に際し、多大なるご尽力をいたいたいた下関市内の先生方及び生徒諸君に心よりお礼申し上げます。



▲講評会



▲展示作品

囲碁部門

会場・萩高等学校

理事長 長井貴宏
(萩高等学校教諭)

平成6年度の囲碁部門第6回大会兼全国高文連第8回大会予選は、平成6年10月23日(日)萩高校で、男子9校58名、女子3校5名計63名で、終日熱戦を繰り広げました。

成績は次のような結果でした。

団体戦(ハンディ一戦)

男子 優勝 山口高校

準優勝 宇部鴻城高校

第3位 下関工業高校

女子 優勝 萩高校



個人代表決定戦(互戦)

名人戦 優勝者

男子 野村幸夫(徳山高2年四段)

女子 松岡陽子(小野田1年3級)

団体選手決定戦 優勝者

男子 作間祐之(山口高2年三段)

池田和正(徳山高2年三段)

女子 阿部恭子(萩高2年11級)

個人戦優勝の男女5名は、平成7年8月6、7日に新潟市で行われる全国大会に出場する予定です。

平成7年度の山口県高文連囲碁部門第7回大会は、小野田高校で10月29日(日)に行う予定にしています。囲碁部に所属していないなくても、自由に参加できますので、1人でも多くの参加を希望しています。



▲ 県総文祭囲碁部門大会(萩高校)

演劇部門

会場・宇部市渡辺翁記念会館

理事長 石井末雄

(下関商業高等学校教諭)

予算不足で、今年は、参加料を一挙に倍に引き上げ、1万円にせざるを得ませんでした。県高文連からの補助が思うにまかせず、事務局は広告集めに奔走しなければならないというジレンマに悩まされました。

10月29日・30日の両日、篠崎光正先生（演出家・桐朋学園大学助教授）を講師兼審査員にお迎えして、宇部市の渡辺翁記念館で開催しました。

中国大会へ出場
権を獲得した

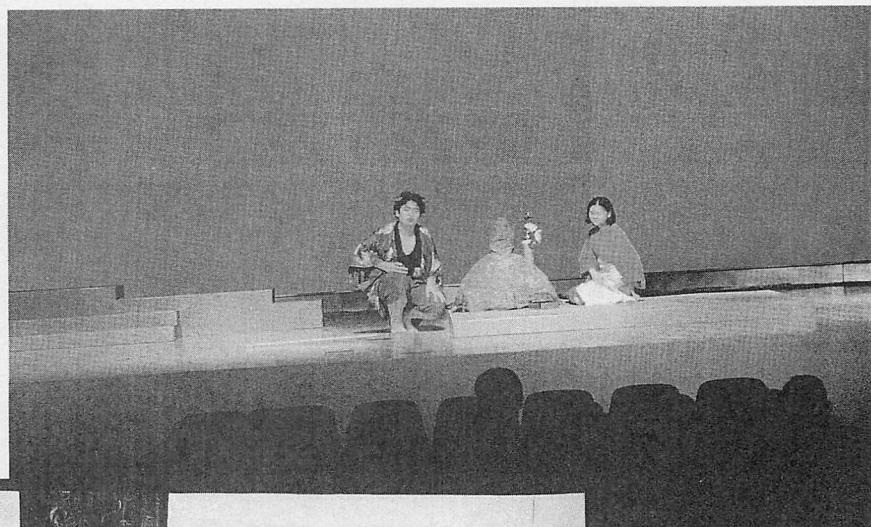
「ベッカンコ鬼」▶
(岩陽高)

「夏の思い出」
▼(下関南高)



た。参加校は、岩陽高校(周防地区)、山口中央高校、西京高校(以上、山防地区)、宇部高校、厚狭高校(以上、宇部地区)、梅光女学院高校、下関南高校(以上、下関地区)の7校でした。

全体的に、力演・熱演ぞろいで「昨年より数段レベルが向上している。」という声が聞かれました。しかし、なかには地区大会での成果が維持できず、十分にその力を発揮できないところ



もあり、演劇が生きものである恐さも知られました。

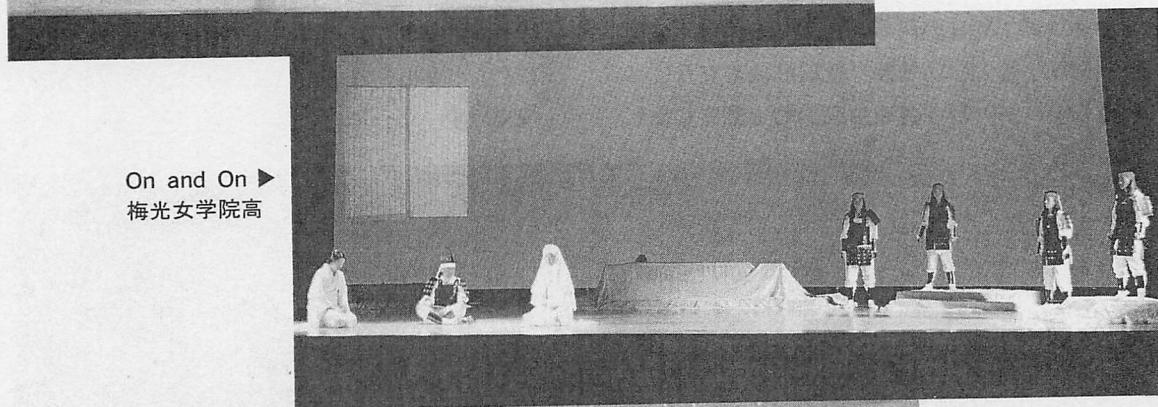
篠崎先生のまとめの講評での実技を混じえての演技指導には、参加者も驚き、大きな刺戟を

受けたようです。

結果は、岩陽高校と下関南高校が中国大会への出場権を得ました。



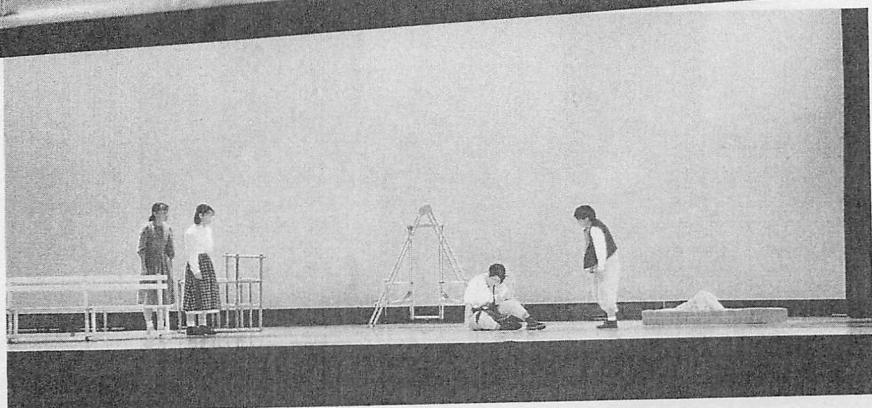
◀ Moral
(宇部高)



On and On ▶
梅光女学院高



◀ 悪魔のクリスマス
(西京高)



◀ ゲルニカ
(山口中央高)

放送部門

会場・西京高等学校

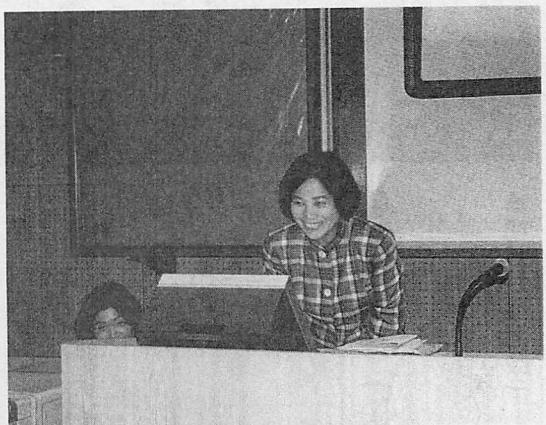


▲審査・講評風景 ▼

▲部会長あいさつ



▲大会風景 ▶



▲交流会風景

第18回全国高等学校総合文化祭の記録



そこに新しい君が見えるように'94愛媛

「そこ」に新しい君が見えるように'94 愛媛
第18回愛媛大会テーマ

参加校一覧（山口県高文連）

部 門 門	高等學校	参加生徒	備 考(演奏曲目・作品等)
パ レ ー ド	佐 波	(30)	マーチングバンド部門に出演
	宇 部 女 子	(10)	(3校合同出演)
	三 田 戸 女 子	(10)	バトンツワーリング部門に出演
	早 鞠	(10)	
吹 奏 楽	下 松	50	『バレエ音楽「ガイース」より』『潮騒と星のまち』
合 唱	防 府	60	混声合唱『風の中をゆく』
器 楽・管 弦 楽	山 口 中 心	46	『ディヴェルティメント K.136』
日 本 音 楽	下 関 南	12	『六段の調べ』
吟詠 剣詩舞	聖 光	3	(2校合同出演)
	中 村 女 子	2	構成吟『山口県の歴史を詠う』
マーチングシンド	佐 波	30	Arabian Night
バ ト ン ツ ウ リ ン グ	宇 部 女 子	10	(3校合同出演)
	三 田 戸 女 子	15	オリエンタル ファンタジー
	早 鞠	10	
美 術・工 芸	徳 山	1	油 彩 B1 『白い鳥と湖と』 河村 公子 (3)
	宇 部	1	油 彩 F30号 『O先生像』 福山 由維 (3)
	山 口	1	油 彩 F20号 『椅子の上の静物』 矢野 容子 (2)
	西 京	1	彫 刻 35×27×34cm 『ASI』 林 裕二 (3)
	大 津	0	デザイン B2 『帰りたい』 伊藤 理恵 (3)
書 道	下 関 西	1	臨 書 『閨戸本古今集』 城戸 裕子 (3)
	熊 毛 北	1	松本たかし句 『金魚大鱗夕焼けの空の如きあり』 藤谷 昌代 (3)
	防 府	1	『帰真』 三時 史子 (3)
	山 口	1	『劉希夷詩』 下川 英昭 (3)
写 真	柳 井	1	『悩む高校生』 森宅 勇 (3)
	美 称 工 業	1	『漁村』 河地 央行 (2)
	小 野 田 工 業	1	『先輩の一言』 田村 忠治 (3)
	徳 佐	1	『夏の日』 河村 康弘 (3)
囲 墓	萩	2	名人戦(女子1名)岩田恵美(2) 団体戦(女子1名)阿部恭子(2)
	山 口	2	団体戦(男子2名) 作間 裕之 (2) 原 智彦 (3)
	徳 山	1	名人戦(男子1名) 野村 幸生 (2)
合 計	22校(延べ30校) 参加生徒数 250名		総合開会式県代表 山口県立徳山高等学校 河村 公子

器楽・管弦楽部門

会場・愛媛県県民文化会館メインホール

山口中央高等学校 3年

藤本美奈子、国兼 千恵

1994年、新学期と同時に新しい顧問の先生をお迎えし、新入生も加えて本当に新鮮な気持ちで、私たちの夏—全総文愛媛大会—に向けての練習がスタートしました。岐阜大会以来10年ぶりの県代表という大役に、色々な不安もありましたが、顧問の先生だけでなく他校の先生方にも御指導をいただき、厳しい練習を積み重ねてきました。努力が少しずつ実を結び、パートリーダーを中心に各パートがまとまるにつれ、部内の雰囲気にも落ち着きが出てくるようになりました。夏休みに入り部員の心もひとつになり全総文直前のコンクールでは金賞をいただくことができました。それが私たちにとって大きな励みとなり、自信を持ち胸を張って愛媛県松

山市へ出発しました。

8月7日、本番当日。とにかく会場の広さにびっくり！ 緊張感も加わって圧倒されそうになりましたが、これまでの練習、そして金賞受賞を心の支えに気持ちを落ち着かせて Mozart 青春の“ディヴェルティメント K. 136”を演奏しました。あっという間でしたが、12分の間演奏をしている私たちは精一杯輝いていたと思います。

ここに至るまでの過程を通して、私たちは音楽のよろこびを知ることができ、素晴らしい思い出をつくることができました。大変な水不足の中、本当にあたたかく迎えてくださった愛媛の方々、そしてこんなに素敵なお機会を与えてくださった全ての方々に心からお礼を申し上げます。



合唱部門

会場・愛媛県県民文化会館メインホール

山口県立防府高等学校

2年 大林 舞

“そこに新しい君が見えるように 一'94 愛媛”
このキャッチフレーズのもとに行われた全国高等学校総合文化祭に参加した2,059校。その中の一校として、この大会に参加できたことに、今改めて感謝の気持ちでいっぱいです。防府を出発してから帰るまで、とにかく密度の濃い、学ぶことの多い、(楽しいことも多かった)貴重な時間を過しました。

参加して感じたことは、他校の皆さんのが上手さ。張りとまろやかさのある声で、強弱の幅が広く、そして何よりも、一人一人の声がよくそろって、全体と調和していました。「ああ、これが合唱なんだなあ。」としみじみ感じました。

もう一つ印象的だったのは、会場の雰囲気。

日頃、他校と接するのは、コンクールの時が多いため、皆緊張して会場の空気が張りつめています。が、ここでは適度の緊張と共に、「合唱が大好き」という雰囲気にあふれていて、歌うことの楽しさにふれることができました。

私達は今回、以前コンクール等でもとりあげた「風の中をゆく」を舞台で歌いました。この曲を歌ったのには理由があります。総合文化祭が開催された松山市は、放浪の俳人山頭火の終焉の地として有名です。この曲は、防府市で生まれ、我が校の同窓生でもある山頭火をモチーフに、前兵庫教育大学教授の岡田昌大先生が作曲して下さり、本校教諭森元輝彦が作詞したものです。こういうわけで、この曲を、松山の人々と私達をつなぐ、大きな、大きな懸け橋にという願いをこめて歌いました。きっと私達



▲防府高等学校

の歌声は、松山の皆さんにも、又、全国から参加したお友達にも共感していただけたのではないかでしょうか。

さまざまな方言の飛び交う交流会での他県の人々との交流も新鮮で、当たり前のことなのですが、改めて日本も広いなあと感心したり、又、技術面で、他県の人々と共有できるものもたくさんあって、嬉しく思いました。

宿泊したホテルが、漱石の「坊ちゃん」で有名な道後温泉にあったのを幸わい、夕食後、友

達を誘って湯につかっても楽しい思い出になりました。折しも松山は、水不足で大変な時でしたが、大会関係の方々も、ホテルの従業員さんも、明るい笑顔で親切に迎えて下さいました。山口県の高文連事務局の先生方にも大変お世話になりました。この大会に参加することができたチャンスをいかし、交流会で受けたさまざまな刺激を忘れずに、これからも素晴らしい歌声を披露できるよう、全国的なレベルをめざして頑張りたいと思います。

第18回全国高総文祭の記録

吹奏楽部門

会場・愛媛県県民文化会館メインホール



下松高等学校▶
吹奏楽部



下松高等学校吹奏楽部 2年

部長 長坂 健士

「今年は全総文に出場することになりました。」ある春の日、新入部員を迎えて活気づく私達に、先生がそう言われました。例年ない小人数で編成の決定もできないうちに、出場申込用紙にステージ配置図を書く先輩の顔には、期待も不安も一緒に表れていたのが今もなお思い出されます。出発はいつになるか？宿泊は？と次々に決まっていくにつれて練習も過熱気味、日々の活動が充実してきました。夏は吹奏楽部にとって忙しい時期であることは、どの学校も同じだと思います。野球応援、合奏コンクール、吹奏楽コンクールなど私達にとっての1年のほとんどがこの夏にやってきますが、今年はこの中に全総文という大きな舞台が用意されました。この上ない喜びとともに、本当にこの夏を乗り越えられるのか、と部員は心の中で思っていたでしょう。事実、雨が降らない梅雨と例年ない暑さからの水不足はその被害の大きさを知らされている私達にとって、演奏以外の大きな不安となりました。1学期も過ぎ、いよいよ夏も本番という頃、いよいよ出発の日が近づいてきました。全総文で演奏する曲の中に「潮騒と星のまち」選んだのは、私達の故郷の歌を全国の人々に聞いてもらいたかったからと、吹奏楽部の合唱というものを披露したかったからです。

しかし、それが裏目でたのか、本番が近づくにつれて合唱の仕上がりの悪さに誰もがあせりを感じました。納得のいかないまま、当日の朝、バスで柳井港に到着。一路松山へ向かいました。松山にて、海岸沿いの宿泊所で練習開始。一般のお客さんが海水浴をしているそばで、約3時間の合奏。あと残りわずかになった時間が、私達にかつてないほどの集中力をもたらしました。そしてとうとう本番の朝、2時間程度の調整を終え、楽器を片付けようとした矢先、「火事だ！」の騒ぎの声が突然、耳に飛び込んできました。宿泊所の裏山が折からの暑さで山火事になり、煙がもうもうと立ち込めています。「急げ！」とばかりに楽器の搬出に取りかかりました。普段40分かかるところがその半分で終了。まさに火事場の馬鹿力を実感しました。部員の心の準備もできないまま会場へ到着。タイムテーブルに押されてチューニング室に入った頃、ようやく部員の顔に落ち着きの色が戻ってきました。いよいよ舞台裏にて待機している時に、関西のバンドの素晴らしい響きが私達の心を揺さぶりました。「自分たちにできる精一杯を」と迎えた本番は、なかなかの好評を得て、部員は山口県代表としての使命を果たしたことに胸を撫でおろしました。一息つく間もなくフェリーへと乗り込んだ私達に、夕暮れの瀬戸内海と快い潮風が一息の安堵を与えてくれました。



マーチングバンド・バントワーリング部門

理事長 花村 慈照

(宇部女子高等学校教諭)

今年度の全国高等学校総合文化祭(愛媛大会)にはマーチングバンドに県立佐波高等学校の生徒34名が参加し、バントワーリングには山口県合同チームとして、早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の3校の30名が参加しました。日程は8月4日(木)18:00~19:30の間千舟町通り~大街道でパレードが行なわれ、佐波高校のプラスバンドの演奏のもと、宇部女子高校、早鞆高校、三田尻女子高校の3校合同チームでバトンの演技を行ない地元の皆さんのかんかんな声援を受けました。8月6日(土)9:00~16:30の間愛媛県総合運動公園体育館において、マーチングバンド・バントワーリング部門の発表会があり、26番目に山口合同バトンチーム『早鞆高校、宇部女子高校、三田尻女

子高校の30名』が出場しました。曲名は『オリエンタル・ファンタジー』でありリズミカルな曲にのって演技をおこない、場内から大きな拍手を受けました。昨年につづき合同チームで参加しましたため、合同練習が十分出来ず心配しましたが、立派な評価を受けることが出来ました。また34番目に佐波高等学校のマーチングバンドが出場し、『Arabia Night』の曲にのって、松浦先生の指揮のもとけいかいなリズムにのってドリルが展開し、すばらしい演奏演技に大きな拍手を受けました。



▼県立佐波高等学校



▲早鞆、宇部女子、三田尻女子高の
三校合同チーム

全総文に参加して

早鞆高等学校ダンス部

酒田 紀子

今年は暑くて水不足の愛媛県松山市で全国高等学校総合文化祭が行なわれました。私たちは、山口県合同チームとして『パレード部門』と『バトントワーリング部門』に参加しました。二回 目なので、昨年以上に気合いが入っていました。バトンのテクニックはツースピーンを入れるなど、レベルアップしたものでした。練習の五か月間は、つらく厳しい毎日が続き、月一回、合計五回の合同練習で、三校の息を合わせ、少しでも無駄な時間をすごさないように、ハードな汗が止まらない練習でした。そして結果は自分自身満足する演技ができるようにと、本番に臨みました。本会場でのリハーサルは出来ばえがよくなかったので遅くまで松山市内の体育館を借りて練習しました。翌日、いよいよ本番です。大勢の拍手の中、不安と緊張でフロアに入りました。各自が自覚して楽しく演技ができ、練習の成果が十分に發揮されて、終わりの拍手が聞こえました。その時の喜びは口では言いあらわせません。『合同とは思えないような統一性が見られました。』とすばらしい講師の講評をいた

だき、みんなで感激しました。きつくて苦しい練習で挫折しそうになったこともありました。根情でやり抜き、良い結果を出したことに對してとても満足感でいっぱいです。高校生活の大きな大きな思い出になりました。

全総文を終えて

宇部女子高等学校バトン部

大上 敦子

『一生心に残る全総文だった』というのが、私の印象です。二年の時に全総文に行くよりも、三年生で全総文に行くのとは、全然感動の味わい方が違うのに私自身驚きました。私は、全総文に行くまで、三校ばらばらなので、どういう風に練習したらいいのかなど悩んだ時もありましたが、その時は、友達がいっしょに悩んでくれたりして、とてもうれしかった事を覚えてています。パレードでは、数日前からの練習で、しかも一番先頭で、自分にとっても不安な感じでいましたが、思ったより先生方がほめてくださったので安心しました。私は三年最後の全総文に出場できたことで、バトン部に入って良かったと思い、何一つ悔いの残らなかった全総文だったと思っています。

第18回全国高総文祭の記録

日本音楽部門

会場・南予文化会館大ホール

下関南高等学校3年

石山 文

全国はすごい！ 心の底からそう思いました。私たち下関南高箏曲部は、みんなでいろいろな曲に挑戦して、楽しみながら弾く、そしてその

演奏を聴いてくださる方々にも一緒に楽しんでいただけたら…、と思って日々練習しています。

そんな私たちがこの全国大会で挑戦したのは、「六段の調」。全国の出場校の曲の中で、唯一の古曲でした。他校の演奏では、箏をたたいたり

していて、こんな箏の演奏もあるのだなあと、部員一同驚きでいっぱいでした。

私たちの演奏は、全国的に見るとまだまだレベルは低いようですが、今回の経験をもとに、これから難しい曲や新しい曲にも挑戦して、少しづつレベルアップしていきたいと、再び初心

に戻った気持ちで日々練習に励んでいます。これからも、「自分たちが楽しめる演奏、そして、それを聴いてくださる方々も楽しめる演奏」を目指して、楽しく厳しく、練習していこうと思っています。



第18回全国高総文祭の記録

吟詠剣詩舞部門

会場・愛媛県新居浜市民文化センター

岩崎 稔生

(中村女子高等学校教諭)

「そこに新しい君が見えるように」のスローガンのもとに第17回全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門の発表会が平成6年8月5日(金)、愛媛県新居浜市民文化センターで行われました。

山口県チームは、聖光高等学校の生徒と本校の生徒で合同チームをつくり、「山口県の歴史を詠う」という構成吟を発表しました。

聖光高等学校の藤井先生のご指導をいただきまた下関工業高等学校の辛嶋先生のご協力も得

て、全国大会発表のリハーサルもかね、平成6年6月に行われた山口県高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門の発表会で、この構成吟を発表しました。

事前の合同練習も2~3度、本校で行いました。聖光高等学校の生徒は、よく練習し吟じ込んでいたように思いました。それに比べ、本校の生徒の練習量の少なさが出てしまい不安を感じる合同練習になったことを覚えています。

そんな中での山口県合同チームですが、各自の責任を果そうという思いで、しっかり練習したように思っています。

また、本校の吟詠部員は全員が2年生で、本校は学校方針で、修学旅行は、夏休みに行うということから、吟詠部員が全員、修学旅行に出かけていて、8月4日に岡山駅に途中下車させその足で新居浜へ移動するという事も重さなり生徒のコンディションは良いとは言えませんでした。当然、8月4日の山口県チームの合同リハーサルはできませんでした。8月5日発表当日、新居浜市民文化センターに行き、そこで聖光高等学校と合流し、山口県チームの発表の時間まで、会場の一角で、リハーサルを行いました。

初めて舞台に立つ生徒もあり、声がちいさく不安を感じさせる場面もありましたが、2度3度とはじめから構成吟をとおして行くと、皆の気持ちが集中し、安心して聞いていられるようになりました。

山口県合同チームの発表は、午前の部の最後の発表でした。生徒の発表は、不安を全然感じ

させない立派な発表だったと思っています。

山口県合同チームの発表が始まると、会場のざわめきがやみ、水をうったように静まりかえりました。そして、生徒の独吟・合吟が終わるたびに、大きな拍手がおこりました。

生徒の発表が終わったあと、生徒を引率した教師の一人として、多大な満足感を持ったことを覚えています。

財団法人「日本吟剣詩舞振興会」の機関誌「吟剣詩舞」10月号に、山口県合同チームのことがでていましたので、紹介しておきます。

「構成吟では、独吟、合吟にナレーションやスライドをからめながら、山口県の歴史をわかりやすく吟じた山口県高等学校文化連盟吟詠剣詩部門の「山口県の歴史を詠う」が工夫のかいあって、なかなか印象的な構成吟になっていました。」

水不足が叫ばれる中での全国大会でしたが、生徒は不平、不足を言わず、自分の責任を果すべくよく努力し、すばらしい成果をあげたと思っています。これからも山口県の吟詠が発展すべく努力するつもりです。



▲山口県合同チーム▶



美術・工芸部門

会場・愛媛県立美術館

山口高等学校 矢野 容子

今回、全国高等学校総合文化祭に参加することができ、大変うれしく思う。美術・工芸部門の作品を鑑賞して大きな感動を受けたことを、今でも鮮烈に覚えている。色の使い方、筆のタッチ、描かれるものの配置、全体の構成など、多くのことを学び、今まで気付かなかつたことを発見することができた。私と同じ高校生が描いたとは思えないほどの作品ばかりだった。ひとつひとつ絵画を見るたびに、この絵はどのよ

うな人が描いたのだろう、どのような気持ちで描いたのだろう、何を訴えたいのだろうと、いろいろな思いが巡った。心が引き寄せられ、作品の前でずっと見入ってしまったものがいくつかあった。そのような絵は、ずっと頭から離れず、私の心に焼き付いている。

すばらしい作品にたくさん出会い、私にとって本当によい経験となった。このことを今後生かして、心に残るようなそんな絵画をめざして頑張りたい。



▲愛媛県立美術館



▼▲展示風景

▲山口県出品作品



▲講評会 智内 元助氏



▲愛媛県合同出品会場

写真部門

会場・愛媛県県民文化会館 真珠の間

柳井高等学校3年 森宅 勇

第18回目を迎えた全国高等学校総合文化祭が8月に愛媛県松山市で行なわれました。数多くの部門の中で、僕は写真部門に参加しました。

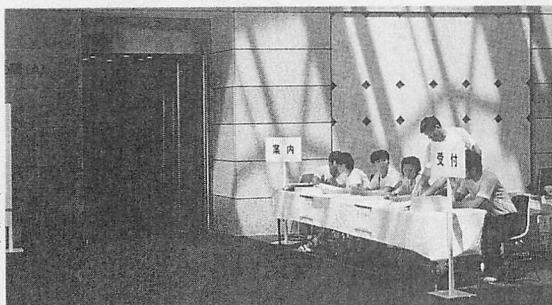
写真部門では全国から選ばれた300点余りの作品が展示されていました。どれもこれも作者の熱意がこもっていて感心させられましたが、特に、カラー写真が多かったことと、芸術性の高いことにおどろきました。カラー写真だと、色彩感覚で訴えるものがあるので、高校生の写真分野にも、新たな一部分が開けたような気がしました。また、モデルを使った写真よりも、素人でもいいから、高校生を使ったほうが、よい評価を受けているような気がしました。僕の作品は今の高校生の姿を象徴的に表したもので3つの別のネガに写したものと1つの印画紙に合成するもので、焼付に苦労しましたが、僕以上

に苦労したと思われるような合成写真もかなり見受けられました。また、身近なものを題材にしたものが多く、写し方や、焼付の仕方しだいで、芸術性のある作品になることも分かりました。

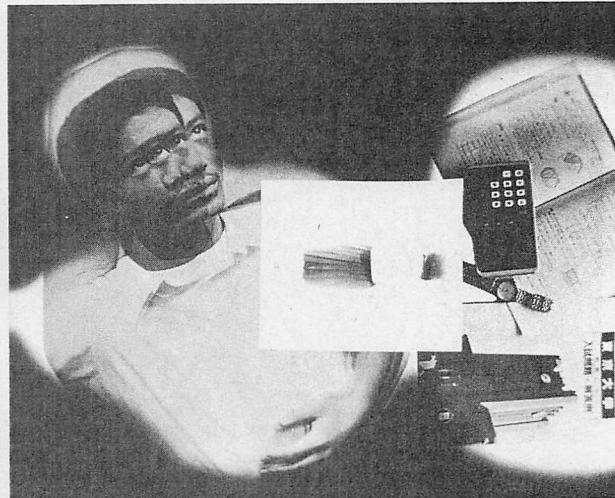
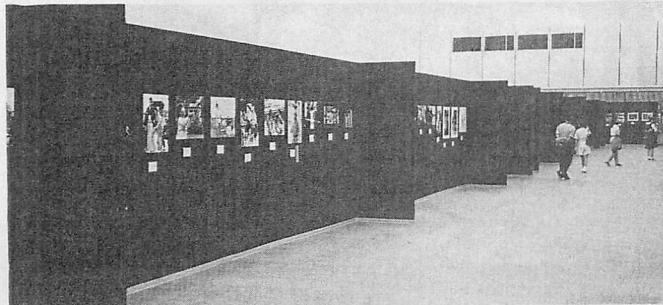
初日には、この写真展示が行なわれている県立総合文化会館で総合開会式もあり、僕も出席しました。式ではオープニングの後、愛媛の四季を1つ1つ順を追って郷土芸能やスライドなどで説明していくものがあり、海外の高校生による国際色豊かな出し物や、愛媛出身の文学者である正岡子規を描いた演劇などがあり、ただただ圧倒されました。

次の日には、松山の観光名所を回って帰途につきましたが、全国の高校生の作品や、すばらしい開会式を見て、本当に勉強になり、これから的生活に役立てていきたいと思います。

▲受付風景



▲展示風景



▲「悩む高校生」 柳井高校 森宅勇君の作品

書道部門

会場・松山市総合コミュニティセンター 企画展示ホール

そこに新しい君が見えるように”94愛媛

熊毛北高等学校 3年 藤谷 昌代

8月4日、高校生の文化の祭典、全国高校総文が、全国各地と、5カ国の高校生代表を迎えて開催され、私もその一人として、書道部に参加させて頂きました。

国際感を豊かにとり入れ華やかに行われた、開会式はもちろん、全国代表191点と愛媛県代表で約400点にものぼる書道展は、全国代表とあってレベルの高い作品が多くすばらしいものばかりでした。そして同時に開催された東京学芸大学の小木良一先生の講評会も聞くことが出来、私にとって生涯忘れることのできない良い勉強になりました。

この夏、私は“そこに新しい君が見えるよう”’94のように、新しい少し変化のある自分になれたような気がします。

参加させて頂いて本当にありがとうございました。

山口高等学校 3年 下川 英昭

書道を始めたのは、今から12年前。小学1年の頃からだったと記憶しています。県高総文など、さまざまなイベントを経験しましたが、その中で最も心に残り、自分自身を精神的に成長させてくれたのは、この全高総文であろうと思います。全高総文への出品を通して、先生方や友人との交流も一層深まり、よい経験を感じています。また、全高総文では、全国の書道を志した同志が集い、書道やその他諸事について、交流を深めたことは、人生の内でも、なかなか得難い経験になると思います。自分とし

てはこの書道、また人ととの交流を通して得られたものを、書道だけに限らず、様々な面で生かしていかなければと思っています。

防府高等学校 3年 三時 史子

8月4日から8日まで、愛媛県で全国総合文化祭が開催され、私は書道部門で参加することになりました。

大会当日、私は胸をワクワクさせながら出発しました。お昼頃には会場の松山市総合コミュニティセンターに到着。さあ作品を見よう!と思つて、建物の中へ入ったとたん、高校生の熱気というのか、その場の雰囲気に圧倒されました。そして改めて、この大会がいかに大きな大会かということを実感しました。日頃少人数で活動し、他校の生徒の作品を直接目につくことの少ない部なので、この度全国の皆さん的作品を見る事ができて大変勉強になりました。一字の作品から千字を越えるもの、篆書を始め、隸・楷・行・草書の様々な書体。そして特に興味を持ったのが“色”でした。これまで墨の濃淡や青か茶系と思っていたのですが、赤、金、緑といった色も使われており、とても新鮮でした。又、紙だけでなく、発泡スチロールを使った作品もあり驚きました。そして何より驚いたのが全国のレベルの高さです。この作品を書くのにどのくらい練習されたのだろうと思い、自分の練習量の少なさが恥しくなりました。北海道から沖縄までの全作品を見終り、カルチャーショックを受けたというような気持ちになりました。私は今回初めて全国大会に参加させていただきましたが、後輩の人達には是非

毎年参加して全国の雰囲気を肌で感じてもらいたいと思います。

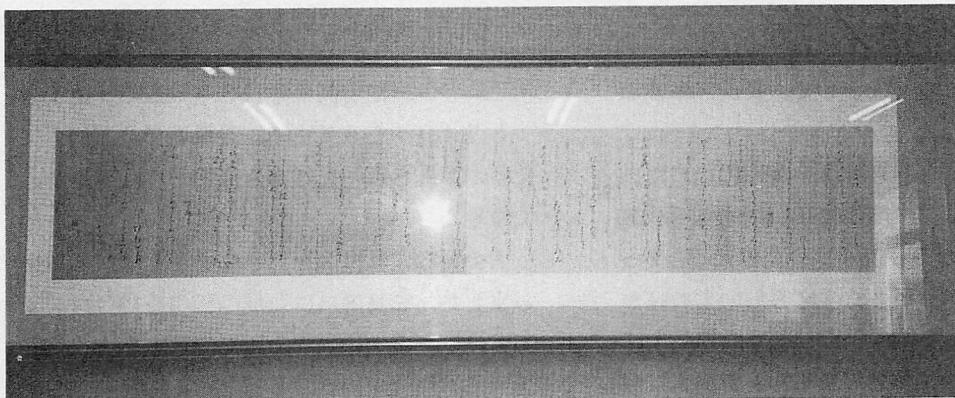
私にとってこの大会に参加できた事はとても良い経験になりました。このすばらしい経験を生かして今後とも努力して行きたいと思います。本当にありがとうございました。

全総文書道部門に出品して

下関西高等学校3年 城戸 裕子

開催地の松山は今夏の猛暑と水不足のために

厳しい給水制限が行われていましたが、市全体が若人の熱気に包まれていて、この大会を成功させようとの意気込みが感じられました。総合開会式ではプラスバンドの演奏、郷土芸能の太鼓など数々の出し物があり、どれもが生徒の気迫が伝わってくる見事な出来栄えでした。書道部門では全国からの秀作がずらりと並べられ、その中に自分の作品がある事が恥ずかしくまたうれしくもありました。



第18回全国高総文祭の記録

囲碁部門

会場・松山市総合コミュニティーセンター

理事長 長井貴宏
(萩高等学校教諭)

全国高文連囲碁部門第7回大会が、8月7、8日に松山市総合コミュニティセンターで開かれました。ここでの会場は松山市の中心部にあり、交通量も多く、路面電車も走っており、市内は大変交通の便の良い所でした。そして、会場はとてもすばらしく近代的な建物で、全員がゆったり対局できるホールで行われました。部会長の方々の挨拶の後、選手全員が真剣に碁盤に向い、熱戦を繰り広げました。昨年度はハンディ

戦でしたので、運が明暗を決めるという面がありました。今年度は互戦ということになり、実力しだいで決まるという厳しい大会となりました。しかし、山口県の選手はよく頑張り、団体戦は途中で優勝するのではないかと思われる程で、結果は32都道府県中9位でした。1人1人皆自分の力を十二分に出し切っての成績は、予想以上の健闘であったと思います。

全国高総文祭囲碁部門に参加して

徳山高校 囲碁同好会顧問 川崎 長門

平成6年度の全国高総文祭囲碁部門大会は、愛媛県松山市総合コミュニティセンターで8月7日(日)、8日(月)の2日間行われました。丁度水不足のさ中で、節水・断水に悩まされました。本校より男子個人戦に参加した2年生の野村幸生君は、昨年よりの連続出場でしたが大会の雰囲気にも慣れ、4勝1敗と昨年の1勝4敗よりも良い成績をあげました。囲碁の別名を「手談」と言い、参加した選手たちは碁石で自分の意志や感情を伝え、対話を楽しみました。局後の検討も熱心に和気あいあいと行い、交流の成果を充分にあげたと思います。松山城に登ったり、松山の町の散策も充分に楽しみました。

現在、囲碁は中国・韓国が熱心に普及を行い、日本は並ばれ追い込まれそうとしています。日本古来の伝統文化である囲碁も、若者の間にもっともっと普及して行く必要を感じました。

萩高等学校 阿部 恒子

私には「勝ってやろう」などの意気込みはあ

りませんでした。こう書くとまるでやる気がないようですが、別にそういうわけではありません。私はほぼ初心者のようなものですから、大会では楽しむことが目的だったのです。

結果は1勝4敗でした。「おっ、1勝してるじゃないか、偉いぞ」と思われるかもしれません。実はこの1勝は不戦勝によるものでした。よって、正確には0勝4敗です。私は団体戦に出場しまして、この結果からもわかるとおり、かなり足を引っ張ってしまいました。他の2人は健闘していたのに、本当にごめんなさい。でも、この結果は私にとってはとても満足のいくものなのです。それというのも、私の本来の目的であった“楽しむこと”が、充分果たされたからです。

強い人との試合はとても勉強になりましたし、いろんな人々と接したことでもとてもよい経験になったと思います。

今思い出しても、本当に素晴らしい大会でした。将来、よい思い出として心に残ればいいなと思っています。



▲対局風景

〈自主事業〉

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

学校／事業	ピアノ	マリンバ	フルート	交響楽団	演劇	金管合奏
安下庄	63			平4		
久賀	63			平3		
岩国					平1	
岩陽					平1	
岩国商業			平3		62	
岩国工業				平2	平6	
坂上			63	平5	平3	
広瀬			63			
高森				平2		
柳井						
柳井商業						
柳井工業					平1平4	
熊毛南	63			平6		
田布施農業				平3	平5	
田布施工業						
光	63					
光丘						
熊毛北				平2	63	
下松	63					
華陵	63				平1	
下松工業				平1		
徳山		定平4				
徳山北	63			平4		
徳山商業		平5	63		平3	
徳山工業					平4	平1
鹿野		平3			平1	
新南陽	63				平5	
南陽工業		平1		62		
佐波			63			
防府						
防府西					平1	
防府商業		定63			平6	平1
山口		定62		平2		
山口中央	63					
西京	62			平4		
山口農業				平5	平3	
宇部	63					
宇部中央		定平1			63	
宇部西						
宇部商業			63	62平6	平3	
宇部工業			平2			
小野田		定63			平4	
小野田工業		定63				
厚狭			平1			
美祢				平4	平2	
大嶺	62	平4			63	
美祢工業				63		

学校／事業	ピアノ	マリンバ	フルート	交響楽団	演劇	金管合奏
田部					平1	
西市					63	
豊浦						
長府						平1
下関西						
下関南						
下関第一						平5
下関中央工業						平6
下関工業		62				平2
響				平5		平1
豊北	62					平3
日置農業	63			平5		平2
大津	63					平5
水産						
萩	63				平3	平6
萩商業	63					平2
萩工業					平6	平4
徳佐				分63	63	
奈古					平1	
盲聾		63	平3			平1
岩国養護				平3		
田布施養護				平6		62
徳山養護					平1	
防府養護	62		平3	63		
宇部養護			63平5		平1	
下関養護				平2平6		
萩養護				平6		
下関商業						
高水						62
柳井学園				平6		63
聖光						平2
山口県桜ヶ丘						
三田尻女子						
多々良学園						
中村女子	63					平2平5
野田学園	63					
山口県鴻城						
宇部鴻城						
宇部女子						
美祢中央						
香川						平1平5
サビエル						
早鞆						
下關子母駒学園	62	63	平4			
長門						平6
萩光塩学院						

(注) ピアノ……弘中 孝 交響楽団……山口県交響楽団 62～平6……実施年度

マリンバ……水野与旨久 演劇……のんた・宇部芸術座・演峡谷

フルート……西田直孝トリオ 金管合奏……東京金管五重奏団

山口県交響楽団の演奏を聴いて

普段あまり聴くことのない演奏を身近で鑑賞をして、多くの生徒が「楽しかった、感動した」と感想を書いてくれました。そしてまた「機会が有ればぜひ聴きたい、聴きに行きたい」と思っているようです。ほとんどの生徒が感想文用紙いっぽいにその素直な気持ちを文字に表わしてくれました。その中の一部を抜粋して掲載しました。

生まれてはじめてオーケストラを聴きました。こんなにすばらしいものとは思いませんでした。50人を超える人達と多くの楽器がある中でも音が一つにまとまってとてもきれいでした。

色々な曲があって楽しめた。どこかで聞いたことのある曲が有ったのでよかったです。生徒会長が指揮をしたとき指揮者がとても大切なことが分かった。子供のころ聞いたことがあるトランペットの子守り歌がとても印象強かった。

今日、生まれてはじめて生のオーケストラを聞かせてもらったけど、普段自分達が聞いている音楽と一風代わった雰囲気でなかなか関心がもてたと思う。目をつぶるとその風景、場所、状況などから浮かんできそうだった。

僕もバンドを組んでいて、多少は音楽のことは分かると思うけど、今日の芸術鑑賞は全く別の音楽だったので、本当に今日は得した気持ちになりました。それと、バイオリンがすごく気に入ったのでやりたくなった。

オーケストラの演奏を聞いたのは初めてで、大変感動した。とくに「ビバルディの四季」は自分が好きでCDを買って、好んで聴いていたのですごくうれしかった。このような機会に恵

まれて、大変有り難いと思っています。

すごくきれいだった。体育館が広かつたらもっと響いて奇麗だったと思う。トランペットのソロと、オーボエの人人がうまかった。情景が目に浮かぶようだった。自分が吹いているサックスが有れば勉強になると思っていたけど、なかったので残念だった。

一番はじめのビバルディの四季から「春」を聞いたとき中学校の思い出が沢山出てきました。

第一楽章だけの演奏だったので、もう少し時間をとって全楽章を聞けたらいいと思う。

花、浜辺のうた、夏の思い出、ふるさとの日本の曲をオリジナルメドレーにしたのは違った感じで聴けてよかったです。とても奇麗だった。

バイオリンやフルートなど知っている楽器もあれば、オーボエやピッコロなど初めて聞く楽器などもあり勉強になった。全部で何種類の楽器で演奏したのだろう。

何か楽器ができる人は、僕はとても尊敬するので、ただすごいの一言しか出でこない。僕も何か楽器ができるようになりたい。

楽団の皆さんには、演奏しているときとても楽しそうに演奏していらしたので、僕も中にはあってやってみたいような気分になった。

生でオーケストラの音楽を聞けてとてもいい気分だった。しかも、僕は一番前だったのでただでS席に座れたということだ。指揮者が大切だということはよく知っていたがあれほどまで



とは……。

後に座っていたので、バイオリンなどの手元の動きが見えなかつたのが残念だったが、とてもよい経験ができたと思う。

日頃、ラジカセの音で満足している自分が少し恥ずかしいような気がした。

曲を聴くときには楽器に目を向けていたけど、指揮者の役目が分かつてからは、両方をしっかり見るようになりました。

途中で指揮を生徒や先生にやってもらうといったとき、正直言ってやってみたかった。

言葉で表現できないくらい感動した。僕達の学校には音楽という教科はないけれど、改めて音楽のすばらしさというものを実感できたと思う。

オーボエを吹いていた人に感動しました。かっこいいと思いました。できるなら、僕もオーボエが吹きたいと思いました。白鳥の湖の出だしのソロが、一人目立ってかっこいいと思いま

した。僕はあまりリズム感がないのでおそらくあれだけ吹けるようになるには何十年かかることでしょう。久しぶりに心が落ち着きました。

色々と楽器の名前やその音楽についてのエピソードなど色々聞いた後、その音楽を聞いてみて何となく頭の中にその色々な情景が浮かんでくるのが分かった。

司会の人がとても面白い人で、会を盛りあげてくれた。とても面白かった。1つ1つの楽器の違い、特徴を教えてもらった。テレビで何度もみたことのあった楽器、今まで見たことのない楽器などがあった。僕はフルートの音が結構好きなので、フルートに注目して聞いた。とても耳に残った。これからチャンスがあれば何回も聞きたいと思う。

曲は知っていても曲名や作曲者などは全く知らなかつたし、あまり興味、関心も薄かつた。でも多くの曲を鑑賞して、今後1曲も多くのクラシックを聞いてみようと思う。鑑賞している間は、野原で寝転がっているような、温かい気持ちになれた。終わってみると短かったので、もう少し聞きたかった。

プラスバンド部員なので、すごく参考になりました。トロンボーンをしているのですが、やはり全然音が違っていました。少しでも音を近づけて、よい音が出るように頑張らなくてはいけないと思います。

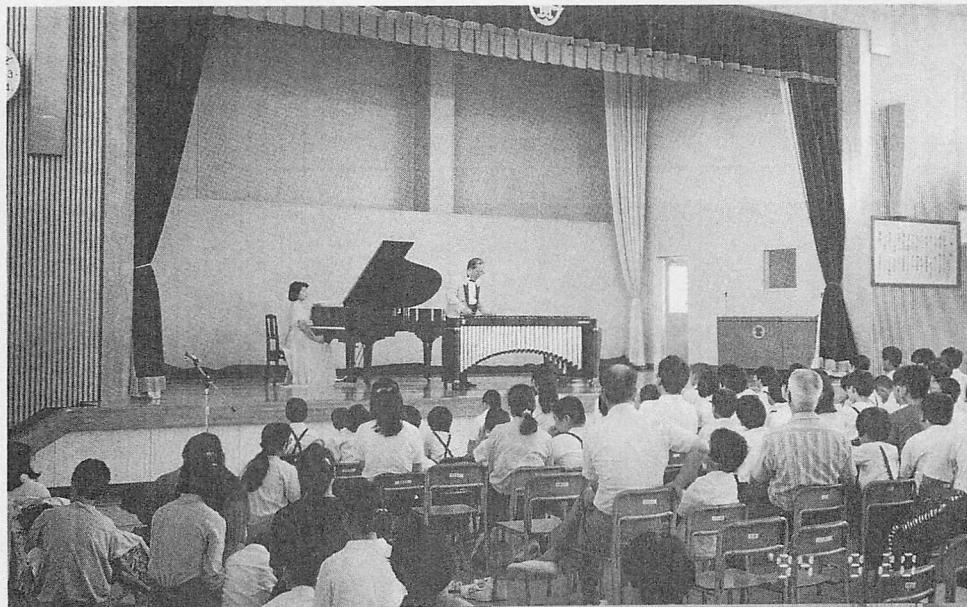
バイオリンの音色があんなに奇麗なものだと
は思わなかった。個人的にはトランペットの音
が1番聞いていて楽しめた。一度、バイオリン
やトランペットなどをひいてみたい。

テレビなどで山口交響楽団の演奏会が開催さ
れるのを見たり聴いたりしたことが有るので、
どんな団体なのかは大体知っていましたが、実
際目の前で演奏してもらって迫力に驚きました。
指揮者の方をじっと真剣な目で見て演奏してい
る姿には熱いものを感じました。

バイオリンの弦が馬の尾でできているとは知
らなかった。一つ一つの楽器紹介にも色々と知
らないことが沢山分かったのでよかったです。

マリンバ演奏会

▼マリンバ演奏風景 田布施養護学校



花束贈呈と生徒達 ▶
田布施養護学校



「巡回演劇で感じたこと」

「蒼い稻妻・高杉晋作」を見て

下関中央工業建築科3年 松村 寛二

この作品を見て特に感じたことは、難しい作品であるなと思いました。劇の中では、役者の方たちの動作で表わす表現が少なく、語りの方がとても多かったです。だから劇を見ていて、内容が難しいものであったし、語りも多かったので、自分が思うには、あまりおもしろみがないなと思います。もう少し演技とかがあるほうが自分は好きです。

劇の内容については、自分が高杉晋作のことをよくしらなかったので、中身をつかみにくかったのですが、劇の中で一番強く心に残っている所は、高杉晋作が病床で読んだ、

「面白きこともなき世を面白く」

という部分ですが、劇をとおしての中では、さほど重要な所ではないと思いますが、自分としては、この部分が一番よく頭に残っています。高杉晋作はどのような思いで読んだのかはわかりませんが、自分としてはこのようではないかと感じました。自分にとってどんなにつまらないとか大変なことでも、そのような事を自分の気持ちのちかたで変えていくようにするというか、良い方向へ改善をしていくように心がけるとか、そのように受けとめました。

この劇をつうじてなにを主張したかったのかはよくわかりませんでしたが、高杉晋作の読んだ、あの句のことをこの劇を見ることによって知ることができたので、劇を見てよかったですなどと思いました。



第9回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

区分		学校数	小説	評論・研究	詩	短歌	俳句	文芸部誌	応募点数
1	北海道	2	0	0	3	0	0	1	4
2	青森	33	2	0	54(222)	56(689)	130(1318)	1	243 (2232)
3	岩手	48	25(90)	1	153(1394)	191(1994)	191(4724)	4	565 (8207)
4	宮城	1	1	0	1	0	0	0	2
5	秋田	17	2(32)	0	17(85)	27(75)	33(90)	2	81 (284)
6	山形	5	2	0	13	0	0	3	18
7	福島	4	1	0	12	9	9	2	33
8	茨城	4	2	0	4	0	0	2	8
9	栃木	0	0	0	0	0	0	0	0
10	群馬	7	9	0	22	12	6	3	52
11	埼玉	5	4	0	6	0	0	3	13
12	千葉	3	1	0	16	42	69	0	128
13	東京	5	4(44)	0	16(65)	40(48)	8(72)	1	69 (230)
14	神奈川	3	1	0	3	0	3	0	7
15	山梨	8	2(42)	0	4(393)	12(437)	12(801)	1	31 (1674)
16	新潟	1	1	0	0	6	4	0	11
17	富山	7	9(13)	0	32(47)	24(64)	30(244)	1	96 (369)
18	石川	6	9	0	34(37)	27(200)	75(200)	1	146 (447)
19	福井	10	3(21)	0	4(98)	9(97)	12(103)	0	28 (319)
20	長野	6	4	0	15	129(322)	51	0	199 (392)
21	岐阜	4	2	0	8	0	3	4	17
22	静岡	7	13	0	5	6	3	3	30
23	愛知	2	0	0	6	0	0	1	7
24	三重	2	4	0	43	15	74	0	136
25	滋賀	0	0	0	0	0	0	0	0
26	京都	1	0	0	0	3	0	0	3
27	大阪	2	2	1	42	0	0	1	46
28	兵庫	7	3	0	52	26	6	3	90
29	奈良	7	5	1	12	3	9	1	31
30	和歌山	4	2	0	17	1	0	1	21
31	鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0
32	島根	5	3	0	19	0	0	1	23
33	岡山	1	0	0	0	3	0	0	3
34	広島	8	6	0	26(49)	47(53)	25(38)	4	108 (150)
35	山口	10	14	0	28	9	0	3	54
36	徳島	0	0	0	0	0	0	0	0
37	香川	8	3	0	23	6	3	3	38
38	愛媛	4	0	0	11	0	3	2	16
39	高知	0	0	0	0	0	0	0	0
40	福岡	4	3	0	30	6	3	2	44
41	佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0
42	長崎	0	0	0	0	0	0	0	0
43	熊本	0	0	0	0	0	0	0	0
44	大分	16	3(96)	0	17(208)	36(79)	67(322)	1	124 (706)
45	宮崎	0	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿児島	0	0	0	0	0	0	0	0
47	沖縄	4	0	1	10	24	274(3263)	0	309 (3298)
	合計	校 271	145(435)	4	758(2999)	769(4229)	1103(11421)	55(55)	2834 (19143)

()は県又は学校段階での応募数を含めた数

部門別応募状況一覧

入賞作品数一覧

区分	応募点数 点	応募者数 人	公私別		学年別			男女別	
			公	私	1	2	3	男	女
小説	145 (192)	143 (184)	120	23	35	61	47	27	116
文芸評論 文芸研究	4 (7)	4 (7)	2	2	0	0	2 共2	0	2 共2
詩	758 (450)	542 (301)	460	82	202	215	125	104	438
短歌	769 (500)	370 (248)	327	43	133	108	129	89	281
俳句	1,103 (716)	529 (379)	463	66	176	176	177	185	344
文芸部誌	55 (54)	55 (54)	52	3	4				
合計	2,834 (1,919)	1,643 (1,173)	1,424	219	546	560	482	405	1,183

区分									
小説	総点数	145	143	◎1	7	8	9	25	
文芸評論 文芸研究	総点数	4	4						0
詩	総点数	758	542	◎1	6	13	16	36	
短歌	総点数	769	370	1	5	11	15	32	
俳句	総点数	1,103	529	1	5	9	15	30	
文芸部誌	総点数	55	55	◎1	3	4	獎励 賞6	14	
合計	総点数	2,834	1,643	5	26	45	61	137	

() 前回

◎印 文部大臣奨励賞

- 第1回(昭和61年度) 17都道府県 110校 890点 630人
- 第2回(昭和62年度) 30都道府県 202校 1,977点 1,297人
- 第3回(昭和63年度) 35都道府県 210校 1,830点 1,235人
- 第4回(平成元年度) 39都道府県 235校 1,990点 1,347人
- 第5回(平成2年度) 41都道府県 240校 2,112点 1,286人
- 第6回(平成3年度) 41都道府県 269校 2,533点 1,595人 総点数15,842点
- 第7回(平成4年度) 42都道府県 282校 2,798点 1,531人 総点数16,370点
- 第8回(平成5年度) 41都道府県 290校 1,919点 1,173人 総点数17,512点
- 第9回(平成6年度) 37都道府県 271校 2,834点 1,643人 総点数19,143点

文芸コンクール受賞作品(山口県)

小説部門	優秀賞	県立下松高等学校 2年 森上由美子			『碧花字樹』
		県立防府高等学校	2年	長尾 祐子	『夜明け』
詩部門	優良賞	県立防府高等学校 1年 永田 浩子			『神様がくれた宿題』
		県立厚狭高等学校	1年	時 玉貴	『あえていうなら』
短歌部門	優良賞	県立聾学校 3年 上田 猛			『海の声、地球の叫び』
		県立萩高等学校	3年	豊田 幸子	『いつもより』
文芸部誌部門	優秀賞	県立下松高等学校 2年 温品 由季			『東京の』
		県立防府高等学校 文芸部			『レセダ』第40号

平成7年度 山口県高等学校文化連盟事業計画

月	日	事 業	会 場
4	13 26	会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	12 23	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	岩国市 東京都 フラシオン青山
6	15 16 17~18 18 18 22 22 23 23 (下旬) (下旬)	尺八と箏 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・パントワーリング） 尺八と箏 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 山口県交響楽団演奏会 尺八と箏 巡回演劇「劇団のんた」 尺八と箏 平成6年度「高文連」発行	佐波高校 下関市民会館 下関市民会館 下関女子短大付属高校 サンビームやない 萩商業高校 下松高校 熊毛北高校 安下庄高校 島根県
8	4~8 5 5~8 26~27	全国高校総合文化祭 第6回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	新潟県 新潟県 新潟県 東京都 国立劇場
10	4 17 29 28~29	山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（囲碁） 県高校総合文化祭（演劇）	宇部鴻城高校 盲学校 小野田高校 岩国市民館
11	(上旬) 5 11 15 18 25~26	県高校総合文化祭（放送） 巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇「宇部芸術座」 県高校総合文化祭 (美術・工芸、書道、写真)	山口中央高校 山口中央高校 徳山工業高校 柳井高校 西京高校 岩国市民会館
12	(中旬) 15	平成7年度「高文連会報」発行 巡回演劇「宇部芸術座」	三田尻女子高校
1	19~20	全国高等学校文化連盟研究大会	神奈川県
2	8 (上旬) (下旬)	全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都 フラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第14回器楽・管弦楽スプリングコンサート	
【その他】県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（下関西高校） 展示関係3部門（岩陽高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（柳井学園） 演劇部（岩陽高校） 囲碁部（小野田高校） 放送部（山口中央高校） 各専門部会 部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会 県下各地において開催予定			

平成6年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

(単位：円)

[収入の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
繰越金	993,985	993,985	0	
会費	11,977,500	11,909,700	△ 67,800	全日制 200円 定時制・盲・聾・養 50円
学校負担金	156,000	155,900	△ 100	100円
補助金	5,022,550 (内訳) 2,200,000 2,743,750 78,800	5,018,150 (内訳) 2,200,000 2,743,750 74,400	△ 4,400 (内訳) 0 0 △ 4,400	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	400,000	400,000	0	
雑収入	10,000	20,882	10,882	利息
合計	18,560,035	18,498,617	△ 61,418	

[支出の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
[運営費]	1,360,500	1,291,596	68,904	
事務用品費	(内訳) 300,000	(内訳) 249,309	(内訳) 50,691	事務用品、写真、事務機器維持費等
通信費	390,000	371,787	18,213	電話、郵便、運送料等
分担金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,100	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
[会議費]	2,054,000	1,518,691	535,309	
	(内訳) 500,000	(内訳) 397,551	(内訳) 102,449	県内会議(企画運営委員会、専門部理事長会)
	675,000	669,280	5,520	全国会議(理事長会、研究大会、部長会等会議)
	870,000	443,020	426,980	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	8,840	160	監査旅費
[事業費]	14,593,400	13,342,812	1,250,588	
県総文祭	(内訳) 6,380,000	(内訳) 6,380,000	0	総合開会式、各部門大会開催費
全総文祭	3,420,000	2,944,667	475,333	生徒旅費、引率教員旅費
自主事業	1,778,400	1,778,400	0	12公演
国際交流	100,000	0	100,000	
大会補助金	100,000	36,514	63,486	
専門部会費	1,615,000	1,135,000	480,000	研修費、通信費
印刷費	1,200,000	1,068,231	131,769	高文連集録、高文連会報、県総文祭ポスター、賞状
[調整基金へ繰入]	0	1,000,000	△ 1,000,000	
[予備費]	552,135	153,451	398,684	
合計	18,560,035	17,306,550	1,253,485	

(収入) 18,498,617円 - (支出) 17,306,550円 = (繰越) 1,192,067円

平成6年度 調整基金会計決算書

(単位：円)

[収入の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
繰越金	1,400,000	1,400,000	0	
積立	0	1,000,000	1,000,000	
合計	1,400,000	2,400,000	1,000,000	

[支出の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
経営予算繰入	400,000	400,000	0	
合計	400,000	400,000	0	

(収入) 2,400,000円 - (支出) 400,000円 = (繰越) 2,000,000円

上記の通り相違ありません。

平成7年4月13日

監事 蔵岡 武史
監事 浦川 幸弘

平成6年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事業	会場
4	13 25	会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	10 20 24	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	柳井市 宇部商業高校 東京都麻布グリーン会館
6	10 17 18~19 19 21 24	山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・パントワーリング） 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 山口県交響楽団演奏会	長門高校 宇部市渡辺翁記念会館 宇部市渡辺翁記念会館
7	7 12	中国地区高文連関係者合同会議	下関市文化会館 萩工業高校 山口市
7	平成5年度「高文連」発行 巡回演劇「劇団海峡座」		下関中央工業高校
8	4~8 5 5~8 25~28 27~28	全国高校総合文化祭 全國高校総合文化祭 （美術・工芸、書道、写真） 第5回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	愛媛県 愛媛県 愛媛県 下関市立美術館 東京都 国立劇場
9	20 22 28 30	水野与旨久マリンバ演奏会 水野与旨久マリンバ演奏会 水野与旨久マリンバ演奏会 水野与旨久マリンバ演奏会	田布施養護 柳井学園高校 萩養護 下関養護
10	23 24 29~30	県高校総合文化祭（囲碁） 巡回演劇「劇団海峡座」 県高校総合文化祭（演劇）	萩高校 萩高校 宇部市渡辺翁記念会館
11	6 8 14 14 19	県高校総合文化祭（放送） 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇「劇団海峡座」 巡回演劇「劇団のんた」	西京高校 熊毛南高校 山口中央高校 防府商業高校 岩国工業高校
12	14	平成6年度「高文連会報」発行	
1	19~20	全国高等学校文化連盟研究大会	岡山県
2	9 6 22	全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都 フラッシュ青山 山口中央高校 山口中央高校
3	23	第13回器楽管弦楽スプリングコンサート	

【委員会等】県高校総合文化祭準備（実行）委員会

総合開会式・音楽関係4部門（宇部高校）

展示関係3部門（豊浦高校）

日本音楽、吟詠剣詩舞部門（下関南高校）

演劇部（サビエル高校）

囲碁部（萩高校）

放送部（山口中央高校）

各専門部会……………部会長校を中心開催

各専門部研修会……………県下各地において開催

【その他】県高校総合文化祭テーマ・全国高等学校文芸コンクール作品・各種ポスター等の公募

県高校総合文化祭ポスター作成

各種刊行物等の発送

山口県高等学校文化連盟 【共催】 【山口県芸術祭】山口県吹奏楽コンクール

【山口県芸術祭】山口県合唱コンクール

全日本吹奏楽コンクール中国大会

アンサンブルコンテスト山口県大会

【後援】 マーチングコンテスト フェスティバル山口県大会

ニューアイヤーコンテスト

平成7年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

[収入の部]

(単位:円)

区分	予算額	前年度予算額	増減(△減)	摘要
繰越金	1,192,067	993,985	198,082	
会費	11,557,500	11,977,500	△ 420,000	全日制 200円×57,500人 定時制・盲・聾・養 50円×1,150人
学校負担金	152,000	156,000	△ 4,000	100円×1,520学級
補助金	9,327,300 (内訳) 2,200,000 7,048,500 78,800	5,022,550	4,304,750 (内訳) 0 4,304,750 0	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	2,000,000	400,000	1,600,000	
雑収入	11,133	10,000	1,133	利息
合計	24,240,000	18,560,035	5,679,965	

[支出の部]

(単位:円)

区分	予算額	前年度予算額	増減(△減)	摘要
[運営費]				
事務用品費	1,240,500	1,360,500	△ 120,000	
(内訳) 270,000	(内訳) 300,000	(内訳) △ 30,000		事務用品、写真、事務機器維持費等
通信費	300,000	390,000	△ 90,000	電話、郵便、運送料等
分担金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,100	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
[会議費]	2,319,000	2,054,000	265,000	
(内訳) 400,000	(内訳) 500,000	(内訳) △ 100,000		県内会議(企画運営委員会、専門部理事長会)
940,000	675,000	265,000		全国会議(理事長会、研究大会、部会長等会議)
970,000	870,000	100,000		事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
9,000	9,000	0		監査旅費
[事業費]	19,913,400	14,593,400	5,320,000	
(内訳) 6,660,000	(内訳) 6,380,000	(内訳) 280,000		総合開会式、各部門大会開催費(別紙)
8,660,000	3,420,000	5,240,000		生徒旅費705万、引率教員旅費161万
自主事業	1,778,400	1,778,400	0	12公演
国際交流	0	100,000	△ 100,000	
大会補助金	0	100,000	△ 100,000	
専門部会費	1,615,000	1,615,000	0	研修費、通信費
印刷費	1,200,000	1,200,000	0	高文連集録、高文連会報、県総文祭ポスター、賞状
[調整基金へ繰入]	0	0	0	
[予備費]	767,100	552,135	214,965	
合計	24,240,000	18,560,035	5,679,965	

平成7年度 調整基金会計予算書

(単位:円)

前年度末現在高	今年度一般会計への繰入	今年度末残高
2,000,000	2,000,000	0

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市中園町2番8号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校等による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、観賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、ろう学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

2 専門部は、演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・パントワーリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、放送の各部門とする。

第2章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| (1) 会長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 12人 |
| (3) 評議員 94人以上 | (6) 専門部理事長 12人 |
| (会長及び副会長を含む。) (7) 監事 2人 | |

(役員の選出)

第8条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
 - (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
 - (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
 - (4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

- (1) 評議員会 (3) 理事長会
- (2) 企画運営委員会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係る重要な事項
- (2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係る軽易な事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の收支予算は、評議員会の決議により定め、收支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続については、企画運営委員会の議決を経て別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運當)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雜則

第21条 この連盟の規約の施工について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、平成6年4月1日から施行する。

(山口県高等学校文化連盟諸規程)

山口県高等学校文化連盟会計規程

昭和62年4月1日改正

平成4年4月1日改正

平成5年4月1日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等學校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

古今考略

各高等学校生徒一人当たり 1 年に	(全日制生徒)	200 円
	(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒)	50 円
各学校負担金 (定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)		学級数 × 100 円

第7条 この規程の執行に關し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から実施する。

山口県高等学校文化連盟事務局規程

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

- (1) 事務局長
- (2) 事務局員 ア 総務係
 イ 庶務係
 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。

第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年7月14日から実施する。

山口県高等学校文化連盟表彰規程

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規定を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規定に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、11部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、11部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
ただし、その際の役員日当は1,200円とし、宿泊費は5,000円（打切り）とする。

3 全国高校総文に関する旅費は、

引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）+宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/2とする。

※ 新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※ 在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会（顧問会議、支部長会議等）を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成6年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

平成7年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向川栄美作詞
乗松美紀作曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかがさされて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかがこたえて くれる



みーわたせ 一 ば ほら なかもがいつでも そばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかもはいつでも まっている きみ



は は ひとりじゃない さ あ ある さ あ ある きだ そ こ う
ひとりじゃない ひとりじゃない は ある は ある ばた そこ う



ぼくらのぶんかを つく くる ため 一 に
ぼくらのぶんかを きづく ため ため 一 に

一、手を伸ばせば ほら
きつと誰かが支えてくれる
見渡せば ほら
仲間がいつでもそばにいる
君は一人じゃない
さあ 歩きだそう
僕等の文化を創るために

二、呼びかけば ほら
きつと誰かが応えてくれる
心を開けば ほら
仲間はいつでも待つている
君は一人じゃない
さあ 翔こう
僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟集録「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	石 島 栄 子 (野田学園高等学校)
マーチングバンド・ バトントワーリング	花 村 慈 照 (宇部女子高等学校)
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄 (県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	椎 木 浩 二 (県立徳山高等学校)
演 劇	石 井 末 雄 (下関商業高等学校)
日 本 音 楽	中 野 靖 子 (中村女子高等学校)
吟詠剣詩舞	藤 井 美恵子 (聖光高等学校)
美 術・工 芸	師 井 俊 夫 (県立山口高等学校)
書 道	荒 瀬 宏 (県立防府高等学校)
写 真	伊 藤 健 司 (県立南陽工業高等学校)
囲 暮	長 井 貴 宏 (県立萩高等学校)
放 送	青 木 幸 子 (県立山口中央高等学校)

(事 務 局)

事 務 局 長	中 邑 立 夫 (県立山口中央高等学校)
総 務	角 中 悅太郎 (")
庶 務・会 計	松 永 康 夫 (")

平成 6 年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高 文 連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753 山口市宮島町 6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話0839-32-0818 FAX0839-32-2838
印 刷 A&C-CREATE co.,ltd. 電話0839-25-0757

